
SoxPlusAdministratorKit

User Guide

SoxPlusAdministratorKit ユーザーズガイド

本『SoxPlusAdministratorKit ユーザーズガイド』の内容および関連する iGrafx FlowCharter ソフトウェアは、㈱サンプランニングシステムズおよび iGrafx, LLC とそれぞれ該当するライセンサーの所有物であり、著作権によって保護されています。本ユーザーズガイドおよび関連ソフトウェアの全部または一部を複製することは、堅く禁止されています。

© SunPlanningSystems.Co., Ltd. All rights reserved.

iGrafx、iGrafx® FlowCharter®、iGrafx® Process™、および iGrafx® Platform® は、カナダ、合衆国、および/またはその他の国々における、iGrafx, LLC および/またはその子会社の商標または登録商標です。SOX+は㈱サン・プランニング・システムズの商標です。Microsoft、Windows、および Excel は、合衆国および/またはその他の国々における Microsoft Corporation の商標または登録商標です。Adobe と Acrobat Reader は、合衆国および/またはその他の国々における Adobe Systems Incorporated の登録商標です。その他の製品、フォント、および会社名とそのロゴは、それぞれ該当する会社の商標または登録商標である場合があります。

【本ガイドをご利用頂く方へ：ガイドの基本ポリシーについて】

SoxPlusAdministratorKit ユーザーズガイド Ver7.0.4 は、日本国内の事務局の方々が海外の子会社、関係会社向けに配布ファイルを作成するために AdministratorKit 英語版を使用することを想定の上作成されています。よって、本ガイドを使用される対象者の作業効率性を考慮し、ガイド中の説明文章は和文、項目名やメニューについては英文で記述してあります旨ご了承ください。



目次

第1章	SoxPlusAdministratorKit の概要	6
	SoxPlusAdministratorKit の起動	7
	SoxPlusAdministratorKit と定義データ	7
	SoxPlusAdministratorKit 使用の流れ (イメージ)	8
第2章	SoxPlusAdministratorKit の機能	9
	SoxPlusAdministratorKit のメニュー	9
	SoxPlusAdministratorKit の使用手順	11
	SoxPlusAdministratorKit を効率的にご利用頂くために	12
	テストモード設定	12
第3章	既存配布ファイル定義データの読込	15
	既存配布ファイル定義データの読込手順	15
第4章	SOX+画面・図形機能カスタマイズ	17
	項目名・データリストの変更	17
	変更箇所の選択方法	18
	データ定義設定画面	20
	Document Info ダイアログボックス	26
	Operational Detail ダイアログボックス	28
	IT Operational Detail ダイアログボックス	29
	Risk ダイアログボックス	30
	Control ダイアログボックス	32
	IT Control ダイアログボックス	35
	コントロール属性と Target Risk 属性の違いについて	35
	System Container	37
	Risk dictionary 編集機能	38
	Risk dictionary (RiskDictionary.xls) の編集・保存	38
	SOX+図形・ナンバー設定	40
	プレフィックス (図形ナンバー接頭語) 設定	40
	メモ表示設定	41
	リスク図形 ナンバー表示設定	42
	キーコントロール文字 (Key) の自動表示切替	43
第5章	出力帳票テンプレートカスタマイズ	44
	RCM ファイルの構成	44
	RCM フォーマットの変更	45
	RCM テンプレートの表示	45
	RCM 出力情報の設定	52
	RCM データ出力位置の変更	53
	データ出力位置の変更をする前に	53
	最初の警告メッセージ	53
	RCM データ出力位置の変更	54

RCM コントロール表示設定	56
帳票一覧フォーマットの変更	57
帳票一覧テンプレートの表示	58
帳票一覧出力情報の設定	59
第6章 配布ファイル作成	60
配布ファイルの設定項目	61
保存先	61
配布ファイルに同梱するコレクション・iGrafx テンプレートファイル	61
配布先ユーザーのカスタマイズ定義データの取込位置	62
第7章 配布ファイルの履歴管理	63
配布ファイル作成履歴	63
第8章 整備/運用評価テンプレートカスタマイズ	65
第9章 サンプル図形集	67
サンプルコレクション図形集の追加	67
サンプルコレクションの紹介	68
第10章 自社用図形集と iGrafx テンプレートを作る	72
自社用図形集を作成する	72
図形の編集方法	72
iGrafx テンプレートの作成	77
iGrafx テンプレートサンプルの活用	77
業務詳細項目フィールドの利用	79
第11章 付録	82
Narratives シート列情報	82
RCM シート列情報	85
Form List シート列情報	91
Evidence List シート列情報	93

第 1 章 SoxPlusAdministratorKitの概要

本書では、SOX+で使用される図形の入力画面及び RCM 出力した際に作成される RCM ファイルのフォーマットなどをカスタマイズできる SoxPlusAdministratorKit（以降、文中では AdministratorKit と略称）の使用方法を説明します。

SOX+は、日本版 SOX 法と呼ばれる金融商品取引法や会社法で要求されている要件に合わせた内容を目指して開発されておりますが、選択項目リストをカスタマイズして自社に合わせて利用したいというご要望を実現するために、AdministratorKit をご提供しております。

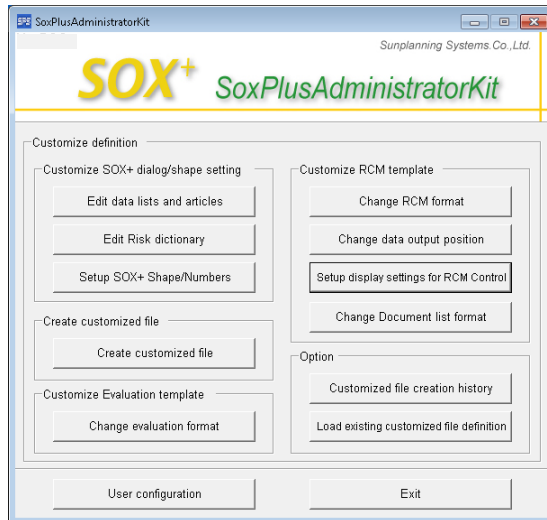
AdministratorKit では以下のカスタマイズが可能です。

詳細内容については、該当ページの説明をご覧ください。

- ・ SOX+図形（文書情報、業務詳細、リスク、コントロール、システムコンテナ）ダイアログボックスの各項目名、選択リストなどの変更、項目の表示方法を変更できます。（P17）
- ・ RCM テンプレートのフォーマット（表示項目の切り替えや項目名の変更、書式の変更、さらには項目の並び替え）を変更できます。（P44）
- ・ リスクの入力を補助するリスク辞書を作成することができます。（P38）
- ・ SOX+図形を識別するプレフィックス（各ナンバーの前につける文字）を変更することができます。（P40）
- ・ 業務詳細、リスク、コントロールの図形に登録した情報をポップアップ表示することができます。（P41）
- ・ リスク図形に表示する情報を、リスクナンバーから分類番号へ変更することができます。（P42）
- ・ キーコントロールに「Key」と表示することができます。（P43）
- ・ RCM フォーマットの列順、列表示、データのソート順を変更することができます。（P53）
- ・ RCM に表示されるキーコントロール行の背景色の表示有無を設定することができます。（P56）
- ・ RCM 出力時に、既出コントロール非表示切替設定の表示有無を設定することができます。（P56）

SoxPlusAdministratorKitの起動

[start] メニューの [All Programs] より「iGrafx」フォルダの中にある「SoxPlusAdministratorKit」をクリックし、起動します。



SoxPlusAdministratorKitと定義データ

定義データとは

SOX+の各ダイアログボックスの画面、各機能の動作は、定義データと呼ばれる多数の設定ファイルによって定義されています。

AdministratorKit は、同じバージョンの SOX+の定義データと同一内容の定義データを持っており、その定義データは、AdministratorKit の各カスタマイズ機能から直接編集・更新することができます。(同じ PC に SOX+ がインストールされていても、SOX+の定義データを編集しているわけではありません。)

AdministratorKit が持っている定義データに対して必要な編集・更新を行い、それらの定義データをユーザーとユーザーでやり取りのできるファイルにすることができます。このファイルを配布ファイルと言います。

SOX+のメニューから配布ファイルを指定して取込をすると、SOX+は配布ファイルから取り込んだ定義データに従って動作するようになります。

定義データの保存

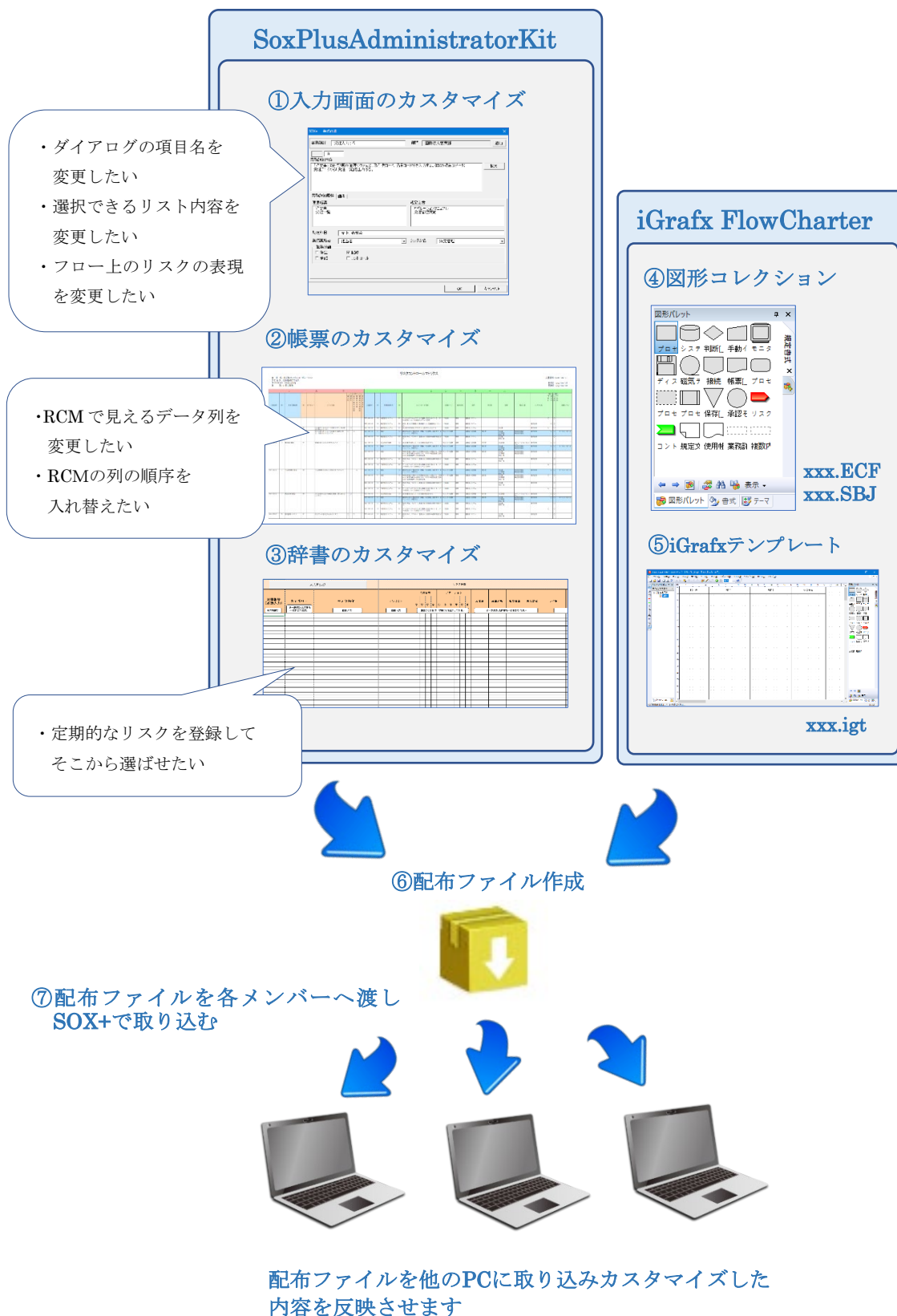
AdministratorKit の定義データは、使用するユーザーごとに保存されています。

定義データは、初期化するか、配布ファイルや履歴から以前の定義データを読み込んだりしない限り、それまでの編集内容がそのまま保持されます。

AdministratorKit の各カスタマイズ機能で何かを変更した場合、そのユーザーの定義データを直接書き換えます。大きな変更を加えたり、色々を変更を試したいような場合は、必ずそれまでの状態を配布ファイルとして保存するようにしてください。

変更を元に戻したい場合、最後に保存した配布ファイルの状態に戻すことしかできません。直前の変更だけを部分的に元に戻すようなことはできませんのでご注意ください。

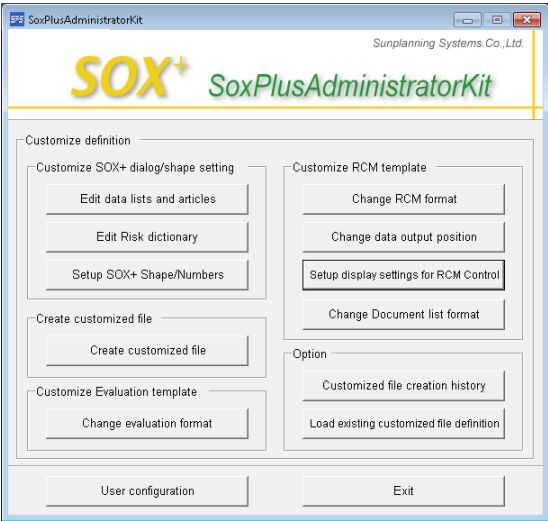
SoxPlusAdministratorKit使用の流れ (イメージ)



第2章 SoxPlusAdministratorKitの機能

この章では、AdministratorKit の機能の概要について説明します。
AdministratorKit の各メニューで変更した内容は、自動的に定義データに保存されます。

SoxPlusAdministratorKitのメニュー



AdministratorKit の主な機能は以下の通りです。

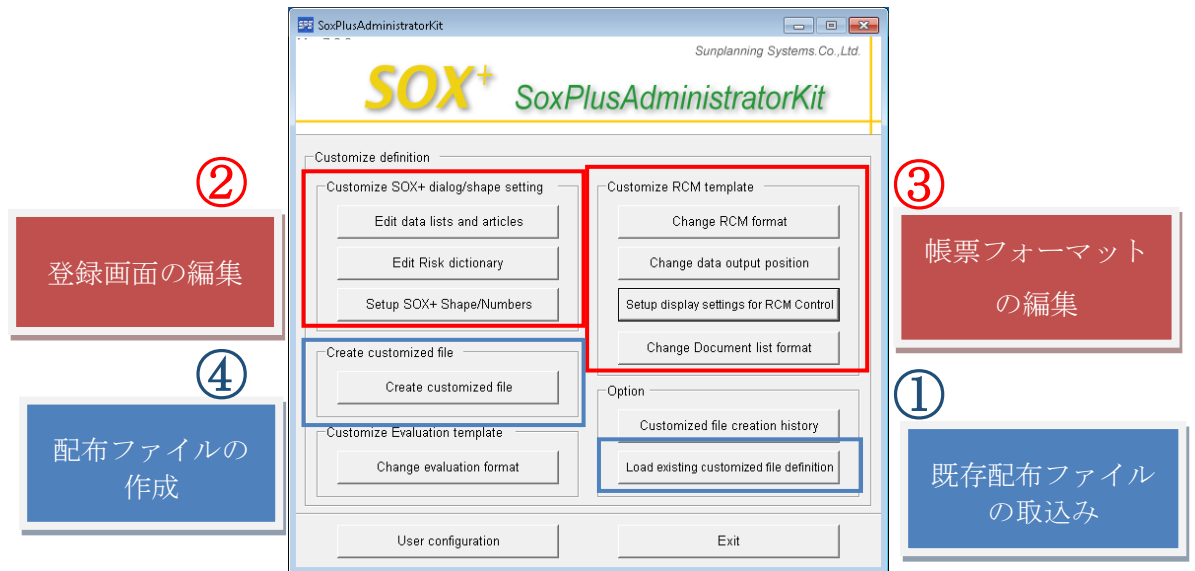
Customize definition

Customize SOX+ dialog/shape setting (→第 4 章 P17～)		
Edit data lists and articles	SOX+ダイアログボックスの各欄の設定を変更します。	
Edit Risk dictionary	リスク入力時にテンプレートとして使用するリスク辞書を設定します。	
Setup SOX+ Shape/ Numbers	General	プレフィックス (RやCなどの図形ナンバーの接頭語) を設定します。
	Operational Detail shape	メモ表示機能 (業務詳細内容のポップアップ機能) を使用するかどうかを設定します。
	Risk shape	リスク図形上の表示を、ナンバー表示にするか分類番号表示にするか指定します。 メモ表示機能 (リスク内容のポップアップ機能) を使用するかどうかを設定します。
	Control shape	キーコントロール文字 (Key) を自動表示するか、非表示にするかを指定します。 メモ表示機能 (コントロール内容のポップアップ機能) を使用するかどうかを設定します。
Customize RCM template (→第 5 章 P44～)		
Change RCM format	Display RCM template	RCMテンプレートの外観を変更します。

			Setting for RCM file output	RCM出力する情報（シート）を指定します。
		Change data output position	RCMテンプレートの各項目の位置（列）を変更します。 ※この変更を行うとRCMテンプレートは初期化されます。	
		Setup display settings for RCM Control	RCM	RCM上で「Key Control」の背景の色を変更するか指定します。
				RCM出力時に既出コントロール非表示切替機能（既出コントロールを繰り返し出力するか、2回目以降非表示にするかを切り替える機能）を使用するかを指定します。
		Change Document list format	Display Document list template	帳票一覧テンプレートの外観を変更します。
			Setting for Document list output	帳票一覧出力する情報（シート）を指定します。
	Customize Evaluation template（→第8章 P 65～）			
		Change evaluation format	Design/Operating Evaluation template および Effectiveness Evaluation templateの外観を変更します。 ※「SOX+ 整備/運用評価オプション」のライセンスキー入力が必要とします。	
	Create customized file（→第6章 P60～）			
		Create customized file	AdministratorKitの定義データを配布ファイルとして保存します。	
	Option			
		Customized file creation history	（→第7章 P63～） 配布ファイルの作成履歴を表示して、そのときの設定に戻すことができます。	
		Load existing customized file definition	（→第3章 P15～） 配布ファイルから定義データをAdministratorKitに読み込むことができます。設定の初期化もここで行います。	
その他				
	User configuration			
		Customized definition and test mode setting	（→第2章 P12～） テストモード中は、同じPCにインストールされているSOX+の動作を、AdministratorKitの設定に一時的に同期させます。 SOX+で同時に確認しながらカスタマイズができます。	
		Add a list of sample collection shapes	（→第9章 P67～） 同じPCのiGrafx FlowCharterに、内部統制文書化プロジェクト用の図形サンプル集を追加します。	

SoxPlusAdministratorKitの使用手順

AdministratorKit では、たくさんのカスタマイズ機能を持っていますが、ここでは目的に応じた使用手順をいくつか簡単に示します。参考にしてください。



1. 初めて配布ファイルを作成する場合



2. 旧バージョンの配布ファイルを最新バージョンにバージョンアップする場合

※SOX+およびAdministratorKitをバージョンアップする際は、配布ファイルもバージョンアップする必要があります。



SoxPlusAdministratorKitを効率的にご利用頂くために

AdministratorKit でカスタマイズした定義データは、通常、配布ファイルを作成して iGrafx の SOX+メニューで取込むことによって、カスタマイズした定義データの内容を確認することができます。

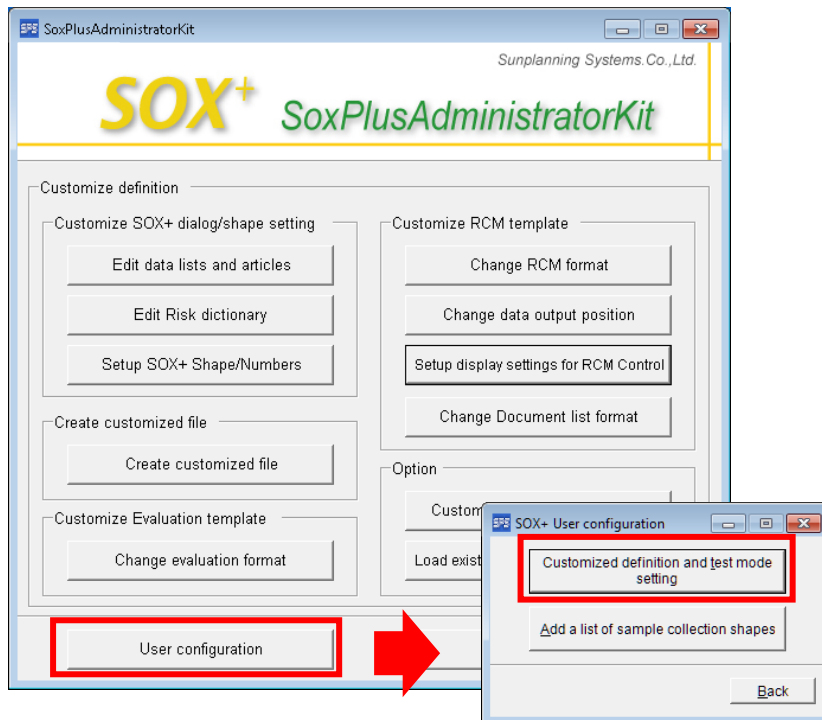
しかし、カスタマイズした内容が SOX+の画面でどのように反映されるのかを、毎回配布ファイルを作成して、SOX+メニューで取り込んで確認しては大変です。

AdministratorKit では、カスタマイズした内容をすぐに確認できるテストモード設定機能を備えています。

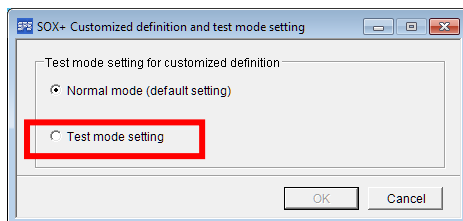
テストモード設定

テストモード設定を適用すると、同じ PC にインストールされている SOX+が、AdministratorKit の設定に同期して動きます。

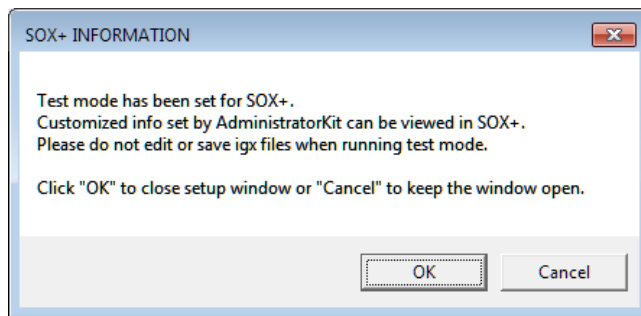
- ① AdministratorKit の [User configuration] をクリックし、[Customized definition and test mode setting] ボタンをクリックします。



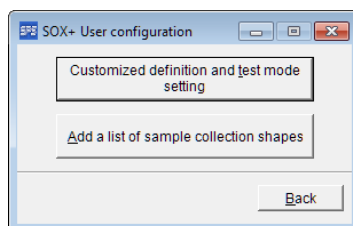
- ② [Test mode setting] にチェックを入れ、[OK] ボタンをクリックします。



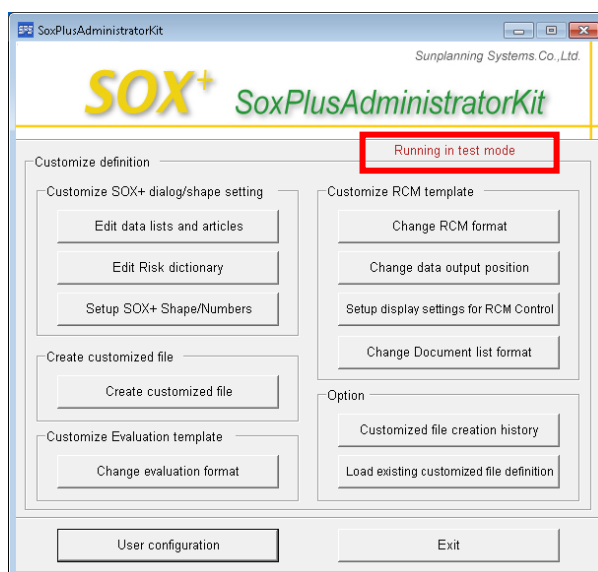
- ③ メッセージが表示されますので、[OK] ボタンをクリックします。



- ④ [Back] ボタンをクリックします。



- ⑤ AdministratorKit のトップ画面に「Running in test mode」と表示されます。



テストモード設定は、もう一度切り替えるか、AdministratorKit を終了するまで有効です。

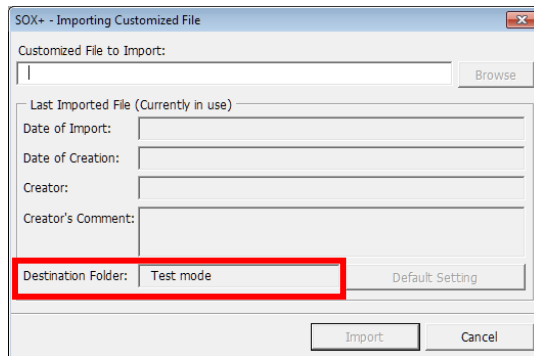
テストモードの間は、設定内容の確認のみを行い、業務フローチャートの編集や保存を行わないようにしてください。

(業務フローチャートを開いたままテストモードへ切り替えた場合は、業務フローチャートを閉じて、新しい文書か、どう変更してもかまわないような文書を開いてください。)

SOX+ の画面で確認

業務フローチャートを編集している iGrafx ツールで、テストモードであることを確認することができます。SOX+メニューより [SOX+ Version Info] を開き、[Import Customized File] ボタンをクリックします。

「Last Imported File (Currently in use)」の中の「Destination Folder」が「Test mode」になっていることを確認します。

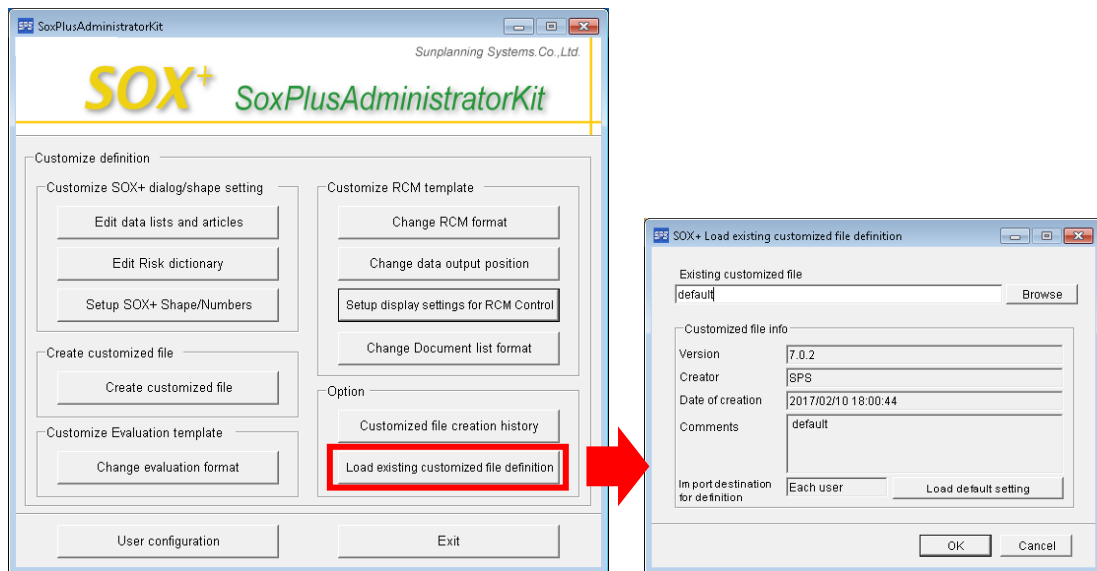


第3章 既存配布ファイル定義データの読込

「Load exiting customized file definition」機能は、既に存在する配布ファイルを読み込み、設定内容を引継ぎます。

この機能は、以下のようなケースに使用して頂くことができます。

- SOX+のバージョンアップに伴い、配布ファイルをバージョンアップする場合、旧バージョンの配布ファイルを最新バージョンの AdministratorKit に読み込み、以前の設定を引き継ぎます。
- PC の入れ替えがあった場合、新しい PC にインストールした AdministratorKit に配布ファイルを読み込み、以前の PC で作成していた設定を引き継ぎます。
- 配布ファイル作成者が変更になった場合、以前の担当者が作成した配布ファイルを新しい担当者の AdministratorKit に読み込み、以前の担当者が作成していた設定を引き継ぎます。



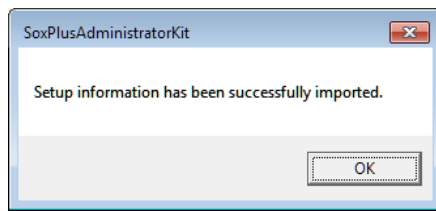
内容	説明
Existing customized file	読込対象の配布ファイルを指定します。
Customized file info	指定した配布ファイルの詳細データが表示されます。
Load default setting	すべての設定内容を初期状態に戻します。

既存配布ファイル定義データの読込手順

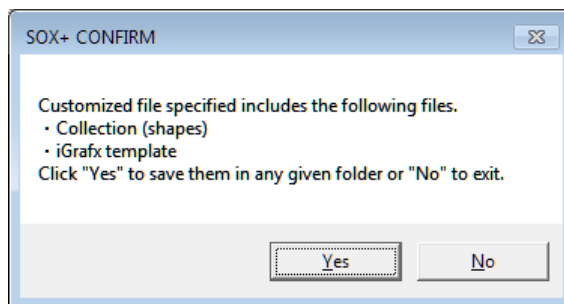
手順は以下の通りです。

- ① 「Load exiting customized file definition」 ボタンをクリックし、「Load exiting customized file definition」 ダイアログボックスを開きます。
- ② 「Browse」 ボタンより読込対象の配布ファイルを指定し 「OK」 ボタンをクリックします。

- ③ 以下のメッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックします。



- ④ 配布ファイルに図形集とiGrafxテンプレートが含まれていた場合は、以下のメッセージが表示されます。



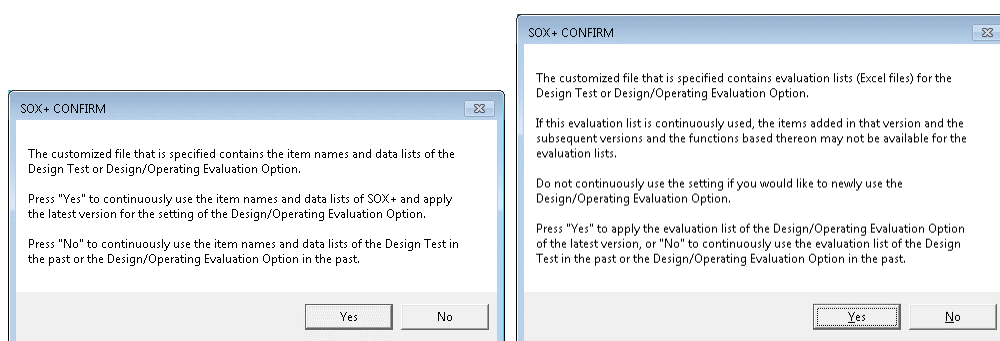
- ⑤ 保存する場合は [Yes] をクリックし、保存先フォルダを指定します。

読込対象の配布ファイルにより、メッセージが異なります。

1. SOX+ 整備/運用評価オプションをご利用の場合

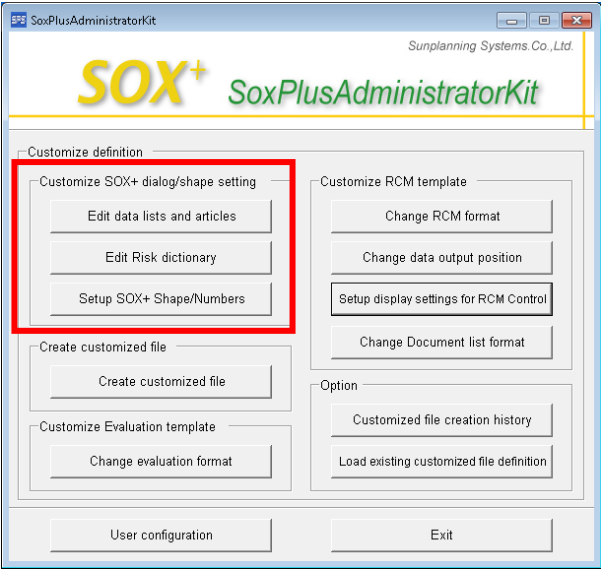
SOX+ 整備/運用評価オプションをご利用の場合、既存の配布ファイルを読み込むと以下のメッセージが表示される場合があります。

メッセージの内容やさらに詳しい操作については、『SOX+製品 導入ガイド』の『SOX+整備/運用評価オプション バージョンアップガイド』（※日本語のみ）および『SOX+ Design/Operating Evaluation Option User Guide』をご参照ください。



第4章 SOX+画面・図形機能カスタマイズ

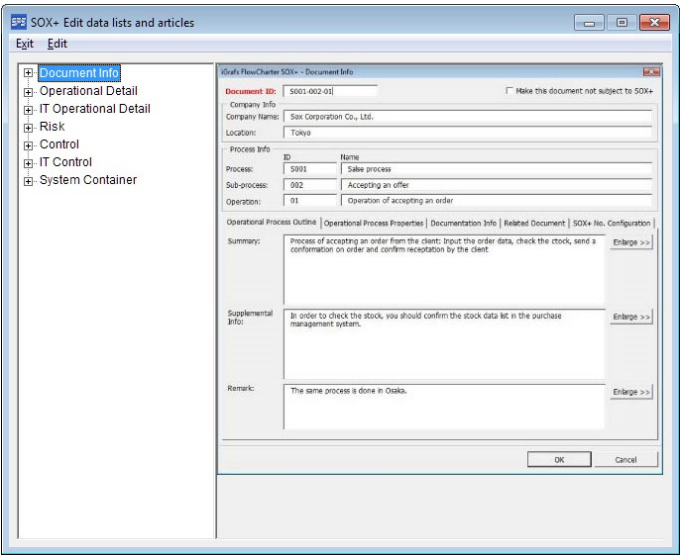
SOX+図形の登録画面の編集や機能設定、リスク辞書の登録などを編集します。



項目名・データリストの変更

SOX 図形+の登録画面をカスタマイズします。

SOX 図形+の登録画面の各項目名および各種データリスト（チェックボックス・ラジオボタン・ドロップダウンリスト）の変更、各欄の表示・非表示の切り替えなどを行います。



内容	説明
Exit	項目名・データリストの変更ダイアログボックスを閉じます。それまでに変更した内容は全て保存されます。
Edit	項目を選択して [Edit] を選択すると、[Data definition] ダイアログボックスが開きます。

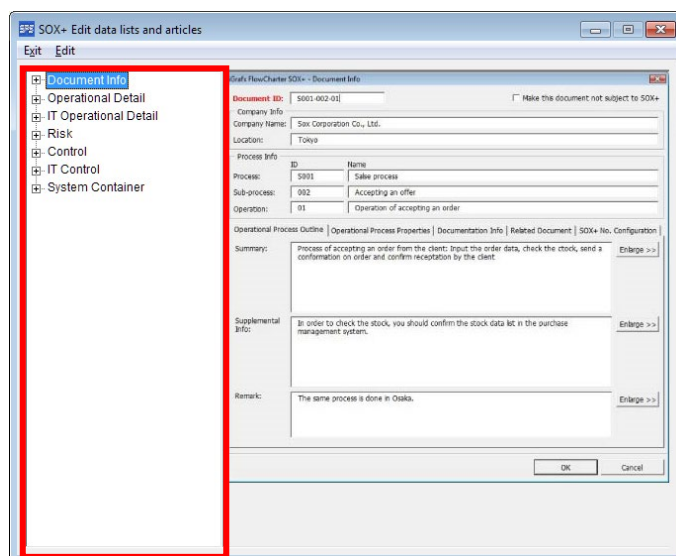
編集対象となるダイアログボックスは以下のとおりです。

- Document Info
- Operational Detail
- IT Operational Detail
- Risk
- Control
- IT Control
- System Container

変更箇所の選択方法

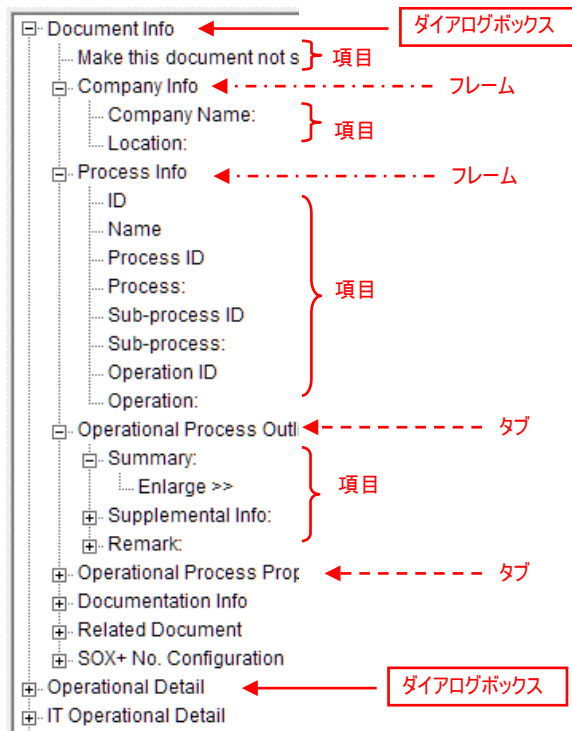
ダイアログボックスの切り替え

左側の対象ダイアログボックスを選択すると、右側のダイアログボックスの画像が選択対象のダイアログボックスに切り替わります。



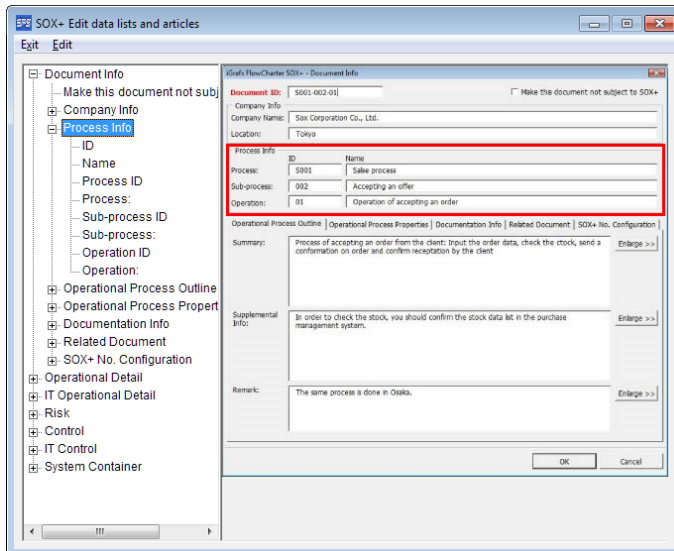
ツリー構造の見方

対象ダイアログボックスの「+」をクリックすると、詳細な項目箇所をツリー構造で表示します。



例) 文書情報の「Process Info」を選択すると、右側の赤枠を対象範囲とします。

「Process Info」のフレーム内にある項目については、さらに「+」をクリックして項目を展開することで、詳細項目を選択することができます。

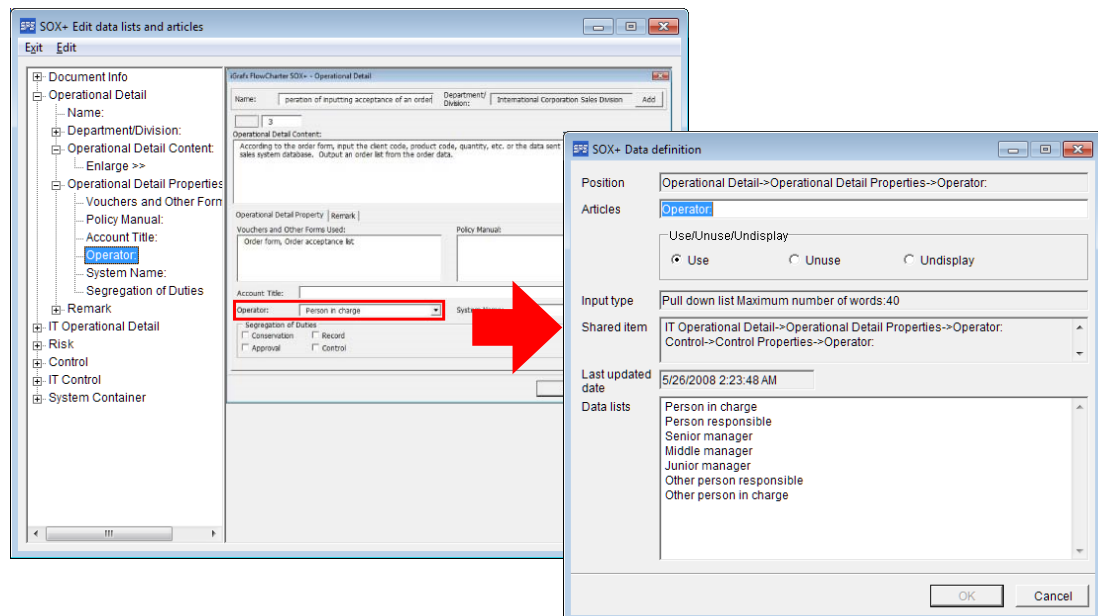


「Customize Evaluation template」(P65)にて、SOX+ 整備/運用評価オプションのライセンスキーが入力された後に当機能をご利用頂くと、SOX+整備/運用評価オプションで追加される画面(「Design Procedures」「Design Evaluation」「CSA Procedures」「CSA Evaluation」「Operating Procedures」「Operating Evaluation」「Response to Deficiency」「Final Evaluation」「Effectiveness Evaluation」)についても、項目の修正を行うことができるようになります。

※ 詳しくは『SOX+ Design/Operating Evaluation Option User Guide』をご参照ください。

データ定義設定画面

修正対象の項目をダブルクリックもしくは項目を選択して「Edit」メニューをクリックし、「SOX+ Data definition」ダイアログボックスを開きます。

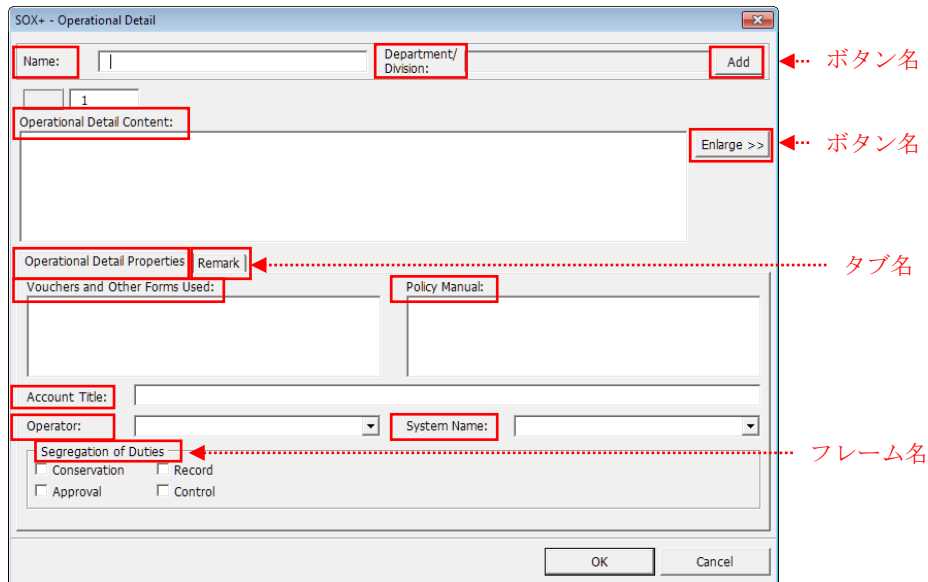


内容	説明
Position	この項目が属しているツリー構造ルートを表示します。
Articles	ダイアログボックスに表示される項目の名称です。自由に変更可能です。
Use/Unuse/Undisplay	項目のUse/Unuse/Undisplayを切り替えます。
Input type	データリストのタイプと最大項目数、最大文字数を表示します。 データリストにはPull down list、Check box、Radio buttonがあります。
Shared item	同じデータリストを共有する、他の項目を表示します。
Last updated date	最後に変更を行った日付を表示します。
Data lists	項目の値に使用するデータリストを表示します。 項目の入力タイプが、Pull down list、Check box、Radio buttonの場合に編集できます。

Articles

各 SOX+図形の項目名、フレーム名、タブ名、ボタン名を変更することができます。
項目名を変更する際は、以下のことに留意してください。

- ① 画面の表示幅からはみ出した部分は表示されません。
- ② RCMテンプレートの項目名称も同様に修正する必要があります。

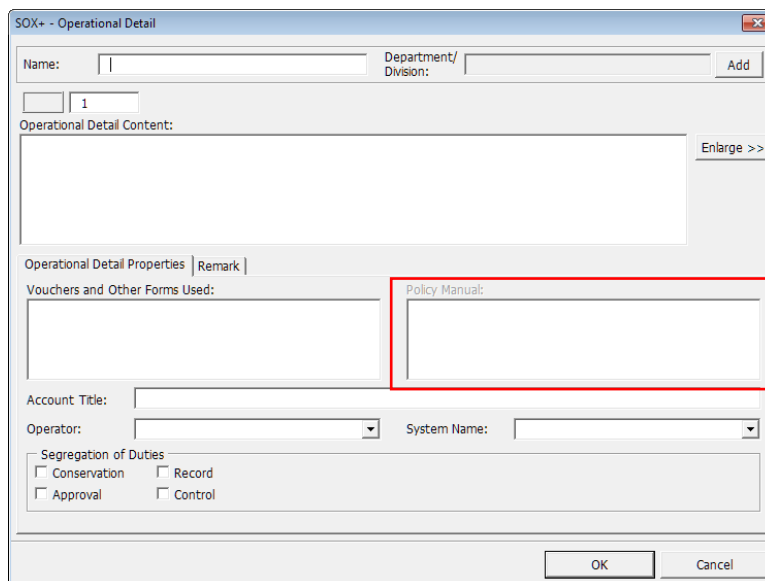


Use/Unuse/Undisplayの切り替え

各項目を、Use/Unuse/Undisplay に切り替えることができます。

- ・ 「Unuse」： グレーアウトで表示し、入力・編集をできない状態にします。
- ・ 「Undisplay」： 項目名および入力欄を非表示にします。

例) Operational Detail の「Policy Manual」を「Unuse」にした場合



例) Operational Detail の「Policy Manual」を「Undisplay」にした場合

The screenshot shows the 'SOX+ - Operational Detail' window. It has a 'Name' field, a 'Department/Division' field, and an 'Add' button. Below these is a '1' in a box. The 'Operational Detail Content' is a large text area. To its right is an 'Enlarge >>' button. Below the content area are two tabs: 'Operational Detail Properties' (selected) and 'Remark'. Under 'Operational Detail Properties', there is a 'Vouchers and Other Forms Used' section and a 'Segregation of Duties' section with checkboxes for 'Conservation', 'Record', 'Approval', and 'Control'. At the bottom are 'OK' and 'Cancel' buttons. A red rectangle highlights the 'Policy Manual' field, which is currently empty.

タブ名やフレーム名を Unuse・Undisplay にすると含まれる項目全てが Unuse・Undisplay となります。

例えば、Control の「Characteristics」フレームを Unuse にすると、その中に含まれる項目「Type」「Assurance Level」「Control Level」「Control Deficiency」が「Use」の設定であっても、「Unuse」になります。

The screenshot shows the 'SOX+ - Control' window. It has an 'Operational Detail' field, a 'Department/Division' field, and a 'Control Type' dropdown menu. Below these is a '1' in a box. The 'Control Content' is a large text area. To its right is an 'Enlarge >>' button. Below the content area are four tabs: 'Control Properties' (selected), 'Target Risk', 'Test Details', and 'Label/Remark'. Under 'Control Properties', there is an 'Evidential Document' section, a 'Policy Manual' section, an 'Operator' dropdown, a 'System Name' dropdown, a 'Control Frequency' dropdown, and a 'Control Category' section with checkboxes for 'Approvals/Authorizations', 'System access', 'Management review', 'Reconciliation', 'Segregation of duties', 'Policies and procedures', 'Key performance indicators', 'Error/Anomaly detection', and 'Automated control'. At the bottom are 'Insert Data', 'OK', and 'Cancel' buttons. A red rectangle highlights the 'Characteristics' section, which contains 'Type' (Preventive/Detective), 'Assurance Level' (Primary/Secondary), 'Control Level' (dropdown), and 'Control Deficiency' (checkbox).

Unuse・Undisplay の項目でも、SOX+の「Batch Loading」機能で、RCM から取り込む際に該当セルにデータが入力されていれば、フロー内に取り込みます。また、項目を Unuse・Undisplay にする前に入力された内容は、項目を Unuse・Undisplay に設定した配布ファイルを取り込んだ後も、フローのファイル内に残ります。

その場合、ダイアログボックスからの編集はできないのでご注意ください。

Input typeとData lists

Input type と Data lists は、項目によって空欄の場合と記述のある場合があります。

記述がある場合は、Input type に記述された仕様に応じて、Data lists を変更できます。

空欄の場合は、自由入力のテキスト項目、あるいはフレーム名・タブ名・ボタン名といった入力項目を持たないケースで、Articles の変更と Use・Unuse・Undisplay の切り替えのみ変更することができます。しかし、ボタンなどの項目によっては、Use・Unuse・Undisplay の切り替えができないものもあります。

Articles のみ変更可能

Input type に記述されている仕様に
Data lists を変更可能

Articles と Use・Unuse・Undisplay
のみ変更可能

1. Pull down list

ポップアップ表示されるリストの中から一つ選択するのが Pull down list です。

一行が一つのデータです。データリスト一行あたりの文字数は、Input type に記述された最大文字数までです。リストの行数に制限はありません。

初期設定値として表示したい値がある場合は 1 行目に登録し、空白（未選択）表示したい場合は、1 行目を空白行にします。「Operator」「System Name」に限っては、自由入力も可能なため、1 行目にデータが入っていても、初期設定値は空白になります。

The screenshot shows a pull-down list for 'System Name' with the following options: Credit sales management, Sales management, Personnel management, and Purchase management. To the right is the 'SOX+ Data definition' window. The 'Position' is 'Operational Detail->Operational Detail Properties->System Name:'. The 'Articles' section shows 'System Name' with 'Use' selected under 'Use/Unuse/Undisplay'. The 'Input type' is 'Pull down list Maximum number of words:40'. The 'Shared item' is 'IT Operational Detail->Operational Detail Properties->System Name:'. The 'Last updated date' is '5/26/2008 2:23:48 AM'. The 'Data lists' section contains the same four items as the pull-down list.

2. Check box

Check box は複数選択できるデータを並べたものです。

一行に一つのデータが入力されています。Input type に記述された最大項目数および最大文字数で登録することができます。改行のみでも一つのデータとしてカウントされます。

例) Assertion は、横 2 列 14 項目分の登録が可能です。文字数は最大 30 文字までです。

The screenshot shows a check box list for 'Assertion' with the following options: Existence or occurrence, Completeness, Rights and obligations, Valuation, Allocation, and Presentation and disclosure. To the right is the 'SOX+ Data definition' window. The 'Position' is 'Risk->Risk Properties->Assertion'. The 'Articles' section shows 'Assertion' with 'Use' selected under 'Use/Unuse/Undisplay'. The 'Input type' is 'Check box Maximum number of items:14 Maximum number of words:30'. The 'Shared item' is 'Control->Target Risk->Assertion'. The 'Last updated date' is '5/26/2008 2:23:48 AM'. The 'Data lists' section contains the same six items as the check box list.

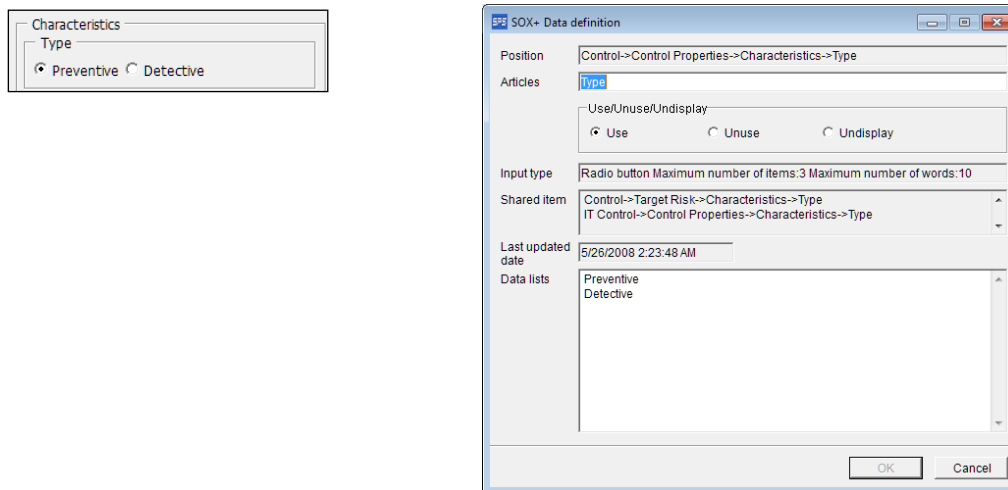
Check box タイプの場合、データリストの編集を行った場合は、RCM のヘッダー部の編集も必要となります。詳しくは P48 の RCM シートの「データ項目数の変更に伴う RCM ヘッダーの修正」の項をご参照ください。

3. Radio button

Radio button は複数の選択肢から 1 つだけチェックできます。

一行に一つのデータが入力されています。Input type に記述された最大項目数および最大文字数で登録することができます。改行のみでも一つのデータとしてカウントされます。

例) Characteristics 中の [Type] の場合、横 1 列に各 10 文字までの 3 項目の登録が可能です。



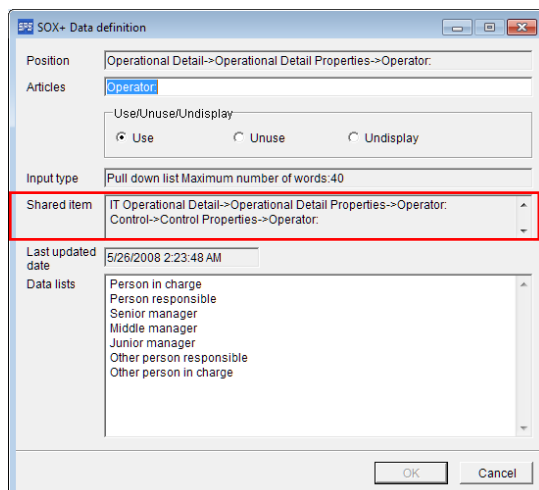
Radio button タイプの場合、データリストの編集を行った場合は、RCM のヘッダー部の編集も必要となります。

詳しくは P48 の RCM シートの「データ項目数の変更に伴う RCM ヘッダーの修正」の項をご参照ください。

4. Shared item

項目の中には複数の箇所データリストを共有しているものがあります。

例えば、Operational Detail shape の「Operator」のデータリストは、IT Operational Detail shape の「Operator」、Control shape の「Operator」、IT Control shape の「Operator」と同じデータリストを共有しています。



Document Infoダイアログボックス

Document Info ダイアログボックスの中の編集可能項目のデータ定義を行います。

初期設定の項目名		入力タイプ	表 示 切替	備考
Make this document not subject to SOX+		チェックボックス	△	「Undisplay」のみ不可
Company Info		—	○	
	Company Name	テキストボックス	○	
	Location	テキストボックス	○	
Process Info		—	○	
	ID	—	○	
	Name	—	○	
	Process ID	テキストボックス	○	
	Process	テキストボックス	○	
	Sub-process ID	テキストボックス	○	
	Sub-process	テキストボックス	○	
	Operation ID	テキストボックス	○	
	Operation	テキストボックス	○	
Operational Process Outline		—	○	
	Summary	テキストボックス	○	
	Enlarge	ボタン	—	
	Supplemental Info	テキストボックス	○	
	Enlarge	ボタン	—	
	Remark	テキストボックス	○	
	Enlarge	ボタン	—	
Operational Process Properties		—	○	
	Account Title	テキストボックス	○	
	System Name	テキストボックス	○	
	Vouchers and Other Forms Used	テキストボックス	○	
	Policy Manual	テキストボックス	○	
Documentation Info		—	○	

初期設定の項目名		入力タイプ	表 示 切 替	備考
	Document Info	—	○	
	Department/ Division	テキストボックス	○	
	Person Responsible	テキストボックス	○	
	Person in Charge	テキストボックス	○	
	Documentation History	—		
	Version	テキストボックス	○	
	Status	テキストボックス	○	
	Documenter	テキストボックス	○	
	Documentatio n Date	テキストボックス	○	
	Last Updated by	テキストボックス	○	
	Last Updated on	テキストボックス	○	
	Last Approved by	テキストボックス	○	
	Last Approved on	テキストボックス	○	
Related Document		—	○	
	Document ID	—	—	
	Operation Name	—	—	
	Renew	ボタン	—	
	Delete	ボタン	—	
SOX+ No. Configuration				
	Specify starting number for each series of shapes	—	—	

Operational Detailダイアログボックス

Operational Detail ダイアログボックスの中の編集可能項目のデータ定義を行います。

初期設定の項目名		入力タイプ	表 示 切替	備考
Name		—	—	
Department/Division		—	—	
	Add	ボタン	—	
Operational Detail Content		テキストボックス	○	
	Enlarge	ボタン	—	
Operational Detail Properties		—	○	
	Vouchers and Other Forms Used	テキストボックス	○	
	Policy Manual	テキストボックス	○	
	Account Title	テキストボックス	○	
	Operator	ドロップダウンリスト	○	最大文字数(40) 初期設定値 <ul style="list-style-type: none"> • Person in charge • Person responsible • Senior manager • Middle manager • Junior manager • Other person responsible • Other person in charge
	System Name	ドロップダウンリスト	○	最大文字数(40) 初期設定値 <ul style="list-style-type: none"> • Credit sales management • Sales management • Personnel management • Purchase management
	Segregation of Duties	チェックボックス	○	最大項目数(12) 最大文字数(15) 初期設定値 <ul style="list-style-type: none"> • Conservation • Approval • Record • Control

初期設定の項目名		入力タイプ	表 示 切替	備考
Remark		—	○	
	Remark	テキストボックス	○	

IT Operational Detailダイアログボックス

Operational Detail と IT Operational Detail の各データリストは、基本的に同じ内容を共有しています。

最初はIT Operational Detailの [Operator] [Policy Manual] [Segregation of Duties] はUnuse項目となっています。必要に応じて使用に切り替えてください。

Riskダイアログボックス

Risk ダイアログボックスの中の編集可能項目のデータ定義を行います。

初期設定の項目名		入力タイプ	表示切替	備考
Operational Detail		キャプション	—	
Department/Division		キャプション	—	
Classification No.		キャプション	—	
Dictionary		ボタン	—	初期設定ではUnuse
Category		ドロップダウンリスト	○	最大文字数(20) 初期設定値 <ul style="list-style-type: none"> • J-SOX Act • Company Law • Others
View Controls		ボタン	—	
Risk Content		テキストボックス	○	
	Enlarge	ボタン	—	
Risk Properties		—	○	
	Impact	テキストボックス	○	
	Control Objective	チェックボックス	○	最大項目数(7) 最大文字数(50) 初期設定値 <ul style="list-style-type: none"> • Reliability of financial reporting • Effectiveness and efficiency of operations • Compliance with applicable laws and regulations • Safeguarding of assets
	Assertion	チェックボックス	○	最大項目数(14) 最大文字数(30) 初期設定値 <ul style="list-style-type: none"> • Existence or occurrence • Completeness • Rights and obligations • Valuation • Allocation • Presentation and disclosure

初期設定の項目名		入力タイプ	表示切替	備考
	Risk Level	ドロップダウンリスト	○	最大文字数(40) 初期設定値 <ul style="list-style-type: none"> • Critical • Minor • Acceptable
	Extent of Impact	ドロップダウンリスト	○	最大文字数(40) 初期設定値 <ul style="list-style-type: none"> • Among group companies • Within a single company • Among multiple processes • Within a single process
	Frequency	ドロップダウンリスト	○	最大文字数(40) 初期設定値 <ul style="list-style-type: none"> • approx. 1 month • approx. 3 months • approx. 6 months
	Estimated Loss	ドロップダウンリスト	○	最大文字数(40) 初期設定値 <ul style="list-style-type: none"> • Less than 1 million yen • Less than 10 million yen • Less than 30 million yen • Less than 50 million yen • Less than 100 million yen • Less than 300 million yen • Less than 500 million yen • Less than 1 billion yen • Over 1 billion yen
Label/Remark		—	○	
	Label	テキストボックス	○	
	Remark	テキストボックス	○	

Controlダイアログボックス

Control ダイアログボックスの中の編集可能項目のデータ定義を行います。

初期設定の項目名		入力タイプ	表示切替	備考
Operational Detail		キャプション	—	
Department/Division		キャプション	—	
Control Type		ドロップダウンリスト	○	最大文字数(40) 初期設定値 <ul style="list-style-type: none"> Manual control IT dependent manual control Automated control
Control Content		テキストボックス	○	
	Enlarge	ボタン	—	
Control Properties		キャプション	○	
	Evidential Document	テキストボックス	○	
	Policy Manual	テキストボックス	○	
	Operator	ドロップダウンリスト	○	最大文字数(40) 初期設定値 <ul style="list-style-type: none"> Person in charge Person responsible Senior manager Middle manger Junior manager Other person responsible Other person in charge
	System Name	ドロップダウンリスト	○	最大文字数(40) 初期設定値 <ul style="list-style-type: none"> Credit sales management Sales management Personnel management Purchase management
	Control Frequency	ドロップダウンリスト	○	最大文字数(40) 初期設定値 <ul style="list-style-type: none"> As Needed (A/N) Daily Weekly Semimonthly Monthly

初期設定の項目名		入力タイプ	表示切替	備考
				<ul style="list-style-type: none"> Quarterly Semiannually A/N(once a year) A/N(2-4 times a year) A/N(5-9 times a year) A/N(10-49 times a year) A/N(50-200 times a year) A/N(over 200 times a year) Annually A/N(more than once a year)
	Occasional Control Frequency	ドロップダウンリスト	○	最大文字数(40) 初期設定値 (Undisplay) <ul style="list-style-type: none"> Approx. Everyday Approx. Every week Approx. Every month Approx. Every 3 months Approx. Every 6 months
	Control Category	チェックボックス	○	最大項目数(16) 最大文字数(30) 初期設定値 <ul style="list-style-type: none"> Approvals/Authorizations Management review Reconciliation Segregation of duties Policies and procedures Key performance indicators Error/Anomaly detection Automated control System access
	Characteristics	キャプション	○	
	Type	ラジオボタン	○	最大項目数(3) 最大文字数(10) 初期設定値 <ul style="list-style-type: none"> Preventive Detective
	Assurance Level	ラジオボタン	○	最大項目数(3) 最大文字数(10) 初期設定値 <ul style="list-style-type: none"> Primary Secondary

初期設定の項目名			入力タイプ	表示切替	備考
		Control Level	ドロップダウンリスト	○	最大文字数(30) 初期設定値 <div><div>・ General Control</div><div>・ Key Control</div></div>
		Control Deficiency	キャプション	○	
Target Risk			キャプション	○	
	Add	ボタン	－		
	Delete	ボタン	－		
	View Target Risks	ボタン	－		
	Operation	キャプション	－		
	Risk	キャプション	－		
	Risk Info	キャプション	－		
	Assertion	チェックボックス	○	最大項目数(14) 最大文字数(30) 初期設定値 (Unuse) <div><div>・ Existence or occurrence</div><div>・ Completeness</div><div>・ Rights and obligations</div><div>・ Valuation</div><div>・ Allocation</div><div>・ Presentation and disclosure</div></div>	
	Characteristics	キャプション	○		
	Type	ラジオボタン	○	最大項目数(3) 最大文字数(10) 初期設定値 (Unuse) <div><div>・ Preventive</div><div>・ Detective</div></div>	
	Assurance Level	ラジオボタン	○	最大項目数(3) 最大文字数(10) 初期設定値 (Unuse) <div><div>・ Primary</div><div>・ Secondary</div></div>	
	Control Level	ドロップダウンリスト	○	最大文字数(30) 初期設定値 (Unuse) <div><div>・ General Control</div><div>・ Key Control</div></div>	

初期設定の項目名			入力タイプ	表示切替	備考		
		Control Deficiency	キャプション	○	初期設定値（Unuse）		
Test Details			キャプション	○			
			Test	キャプション	○		
				Method	テキストボックス	○	
				Operator	テキストボックス	○	
				Cycle	テキストボックス	○	
Label/ Remark			キャプション	○			
			Label	テキストボックス	○		
			Remark	テキストボックス	○		
Insert Data			ボタン	－			

IT Controlダイアログボックス

Control と IT Control のリストデータは、基本的に同じ内容を共有していますが、以下の Control Type だけ、データリストが異なります。

初期設定の名	入力タイプ	表示切替	備考
Control Type	ドロップダウンリスト	○	最大文字数(40) 初期設定値 ・ IT Control

初期設定値では IT Control の [Operator] [Policy Manual] は不使用項目となっています。必要に応じて使用に切り替えてご利用ください。

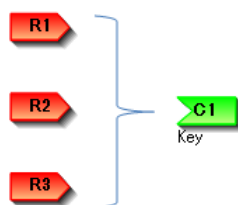
コントロール属性とTarget Risk属性の違いについて

リスクとコントロールの関係における属性情報は、以下の2つの考え方による設定が可能です。

1. コントロール属性

コントロールを主体にした考え方です。インストール直後はこの設定になっています。

例えば、複数のリスクを1つのコントロールで統制していた場合でも、すべての **Target Risk** に対してコントロールの属性は一意です。



Control Properties | Target Risk | Test Details | Label/Remark

Evidential Document:
Order form
Confirmation of order
Order acceptance list

Policy Manual:
Sales management regulation

Operator: Person in charge System Name: Sales management

Control Frequency: As Needed (A/N)

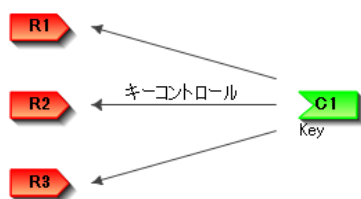
Control Category:
☒ Approvals/Authorizations ☐ System access
☒ Management review
☒ Reconciliation
☐ Segregation of duties
☐ Policies and procedures
☐ Key performance indicators
☐ Error/Anomaly detection
☐ Automated control

Characteristics:
Type: ☐ Preventive ☒ Detective
Assurance Level: ☒ Primary ☐ Secondary
Control Level: Key Control
☐ Control Deficiency

2. Target Risk属性

対象となるリスクを主体とした考え方です。AdministratorKit で設定します。

例えば、複数のリスクを1つのコントロールで統制していた場合に、**Target Risk** ごとにコントロールの属性を設定することができます。



R1

Control Properties | Target Risk | Test Details | Label/Remark

Operation: S001-002-01 Operation of accepting an order

Risk: R1 Risk of accepting an unsolicited or false order.

Risk Info: Operational Details -> [3]Operation of inputting acceptance of an order
Risk of accepting an unsolicited or false order.

Assertion:
☒ Existence or occurrence
☐ Completeness
☒ Rights and obligations
☐ Valuation
☐ Allocation
☐ Presentation and disclosure

Characteristics:
Type: ☐ Preventive ☒ Detective
Assurance Level: ☒ Primary ☐ Secondary
Control Level: Key Control
☐ Control Deficiency

R2

Control Properties | Target Risk | Test Details | Label/Remark

Operation: S001-002-01 Operation of accepting an order

Risk: R2 Risk of losing the order form data and missing a sales chance.

Risk Info: Operational Details -> [3]Operation of inputting acceptance of an order
Risk of losing the order form data and missing a sales chance.

Assertion:
☐ Existence or occurrence
☒ Completeness
☐ Rights and obligations
☐ Valuation
☐ Allocation
☐ Presentation and disclosure

Characteristics:
Type: ☐ Preventive ☒ Detective
Assurance Level: ☒ Primary ☐ Secondary
Control Level: Key Control
☐ Control Deficiency

R3

Control Properties | Target Risk | Test Details | Label/Remark

Operation: S001-002-01 Operation of accepting an order

Risk: R3 Risk of accepting an order over the credit limit.

Risk Info: Operational Details -> [5]Confirming credit limit.
Risk of accepting an order over the credit limit.

Assertion:
☐ Existence or occurrence
☐ Completeness
☐ Rights and obligations
☒ Valuation
☐ Allocation
☐ Presentation and disclosure

Characteristics:
Type: ☐ Preventive ☒ Detective
Assurance Level: ☒ Primary ☐ Secondary
Control Level: Key Control
☐ Control Deficiency

[Target Risk] タブの [Assertion] を「Use」にすると、Target Riskに定義されているAssertionは赤字で表示されます。このうちコントロールが統制しているAssertionがいずれであるかを特定することができます。

ターゲットリスク属性を使用する場合の設定方法

ターゲットリスク属性を使用される場合は、以下の操作が必要となります。

- ① 「Target Risk」タブの属性項目は「Unuse」となっています。必要に応じて「Use」に変更してください。
- ② 「Control Properties」タブの同種の項目（TypeやAssurance Level、Control Level、Control Deficiencyなど）は不要となりますので、「Unuse」または「Undisplay」にしてください。

※項目を「Unuse」または「Undisplay」に変更した場合、既に入力済みのデータは消えずにそのまま残ります。切り替えの際は、[Control Properties] タブの [Control Level] に [Key Control] を指定している既存のコントロールがないかどうか注意してください。「Unuse」または「Undisplay」の状態では指定を変更できません。

- ③ 上記設定に伴ってRCMシートの列項目を表示または非表示で使用する列項目を整えます。

The screenshot displays the 'Control Properties' configuration window. In the 'Control Properties' tab, the 'Control Level' is set to 'Key Control'. The 'RCM Sheet' configuration shows columns for 'Risk Assertions' and 'Control Assertions' with various assertion types like 'Existence or Occurrence', 'Completeness', 'Rights and Obligations', 'Valuation', and 'Presentation and Disclosure'.

RCM シートの列項目一覧については P85 をご覧ください。

System Container

System Container 内で設定できる [System Name] についてデータ定義を行います。

初期設定の項目名	入力タイプ	出力	備考
Department/Division	キャプション	—	
System Name	ドロップダウンリスト	—	最大文字数(40) 初期設定値 <ul style="list-style-type: none"> • Credit sales management • Sales management • Personnel management • Purchase management

Risk dictionary編集機能

Risk dictionary は、Excel ファイルで管理されています。

[Edit Risk dictionary] ボタンより Risk dictionary (RiskDictionary.xls) を開き、リスクの登録と編集を行います。

[illegible]

※マクロを有効にして利用します。マクロが有効になっていない場合は [Input check] ボタンが使用できません。

Risk dictionary(RiskDictionary.xls)の編集・保存

タイトル（見出し）の変更

Risk dictionary の第 1～3 行は、見出し行になっています。見出しの内容は自由に変更できますが、原則として対応する項目名・データリストに表示を合わせておきます。特に [Edit data lists and articles] 画面で項目名・データリストを編集した場合は、必ず変更しておきます。

Risk Properties						
Control Objective		Assertion				
Reliability of Financial Reporting	Effectiveness and Efficiency of Operations	Compliance with Applicable Laws and Regulations	Safeguarding of Assets	Existence or Occurrence	Completeness	Rights and Obligations
					Valuation	Allocation
						Presentation and Disclosure
						Risk Level

[Edit data lists and articles] で設定してある内容に合わせます

Please mark with "x"

Please

表示非表示の切り替え

辞書として必要な項目（列）は網羅されています。使用しない項目（列）は [Hide] に、既に非表示になっている列を使用したい場合は、[Unhide] にして利用します。列の追加と削除は行わないでください。

辞書データの入力

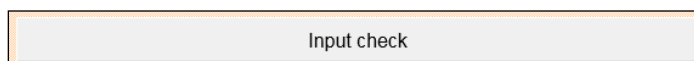
項目欄の入力指示に従って編集します。

登録するリスク数に制限はありません。

初期設定の項目名	説明
Classification No.	必須入力です。半角英数字5文字までのコードを割り当てます。
Category	登録した「Data lists」の値を記入します。
Risk Content	自由入力です。(最大文字数：4000)
Impact	自由入力です。(最大文字数：2000)
Control Objective	該当する項目に「*」を記入します。
Assertion	該当する項目に「*」を記入します。
Risk Level	登録した「Data lists」の値を記入します。
Frequency	登録した「Data lists」の値を記入します。
Extent of Impact	登録した「Data lists」の値を記入します。
Estimated Loss	登録した「Data lists」の値を記入します。
Label	自由入力です。(最大文字数：1020)
Remark	自由入力です。(最大文字数：4096)

Input check

入力を終えたら、[Input check] ボタンをクリックします。入力内容が制限に沿っているかどうか確認します。エラーがあったセルには色が付きますので、内容を修正してください。



保存

全ての追加・編集を終えたら、上書き保存して Excel を閉じます。編集済みの Risk dictionary は、配布ファイルを作成したときに一緒に保存されます。

Risk dictionary機能を使用できるように設定する

Risk shape の [Dictionary] ボタンは、初期設定で「Unuse」に設定されています。

[Edit data lists and articles] で、「Use」に切り替えてください。(P 17 参照)

SOX+図形・ナンバー設定

ここでは、SOX+で利用する以下の機能を設定することができます。

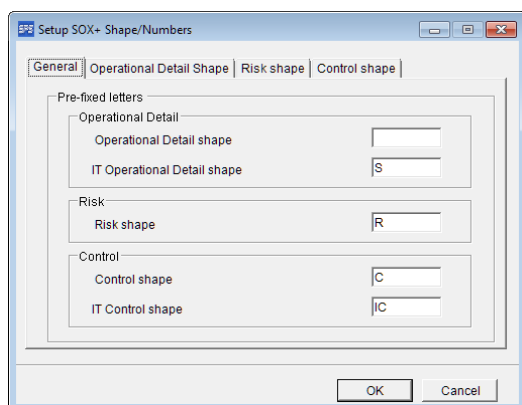
1. SOX+図形の識別用プレフィックス文字の変更
2. メモ登録機能の設定
3. リスク図形の番号表記の切替
4. キーコントロール文字の表示・非表示の切替

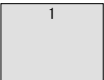
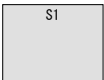



新しい設定を既存の業務フローチャートに適用する場合は、業務フローチャートを開いて、SOX+メニューの [Display Info Update] 機能を使用して図形の表示を更新します。

プレフィックス(図形ナンバー接頭語)設定

SOX+図形には、それぞれのナンバーの前に、種類ごとに Pre-fixed letters が設定されています。

Pre-fixed letters は、3 文字までの半角アルファベットで自由に変更できます。ただし、違う種類の図形に同一の Pre-fixed letters を使用することはできません。



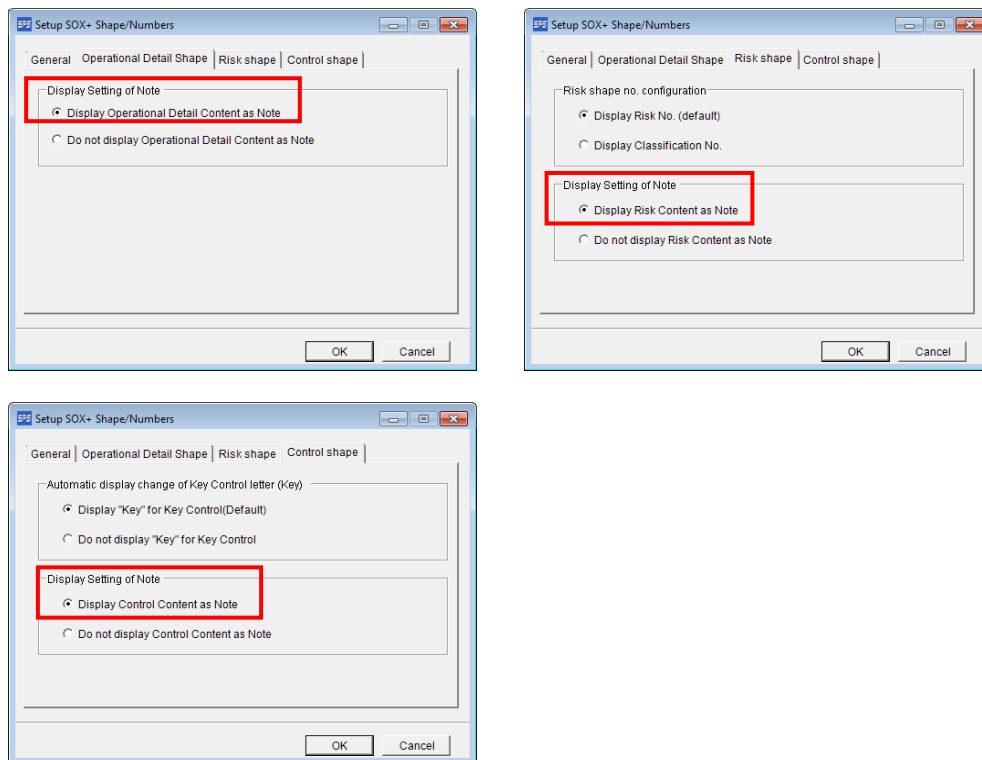
図形サンプル				
Operational Detail	Operational Detail shape		IT Operational Detail shape	
Risk				
Control	Control shape		IT Control shape	

標準では、Operational Detail shape がプレフィックス無し、IT Operational Detail shape が「S」、Risk shape が「R」、Control shape が「C」、IT Control shape が「IC」となっています。

メモ表示設定

業務詳細、リスク、コントロールの図形に入力した「内容」を「メモ」に自動登録することができます。「メモ」に登録された内容は、それぞれ該当の図形上にカーソルを合わせると「内容」がポップアップ表示されます。これにより、ダイアログ表示機能を持たない他ファイル形式に出力された図表（WEB ページ出力、PDF 出力、WEB Central）においても、登録された「内容」をポップアップ表示で確認できるようになります。

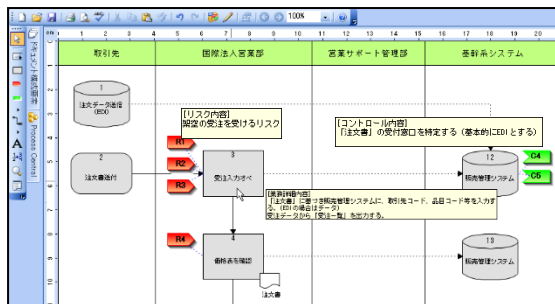
メモ表示機能を使用するには、「Display・・・as Note」を選択します。



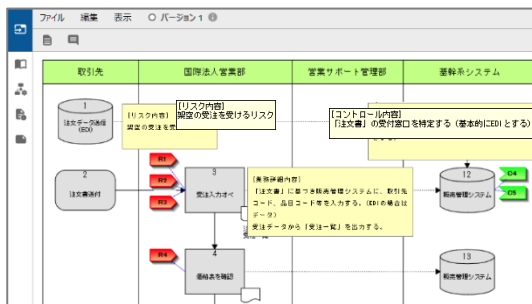
※iGrafx 上では、メモ表示をオフにすることもできます。

[View] メニューの [Note Tooltips] をクリックすると表示、非表示が切り替わります。

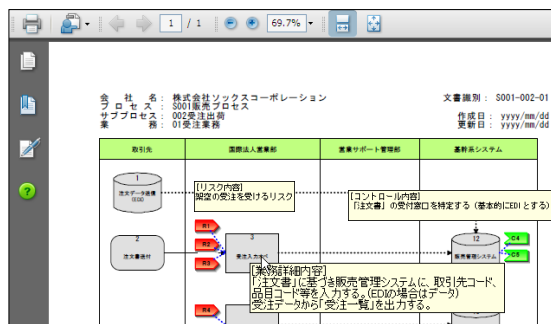
■iGrafx 画面



■WEB 画面



■PDF 画面



リスク図形 ナンバー表示設定

Risk No.の代わりに、Classification No.を表示することができます。

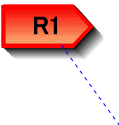
例) リスクが下図の内容の場合

R	1	Classification No.: A-10	Dictionary
Risk Content: Risk of accepting an unsolicited or false order.			

[Display Risk No. (default)]

リスク図形には下右図のように Risk No.が表示されます。

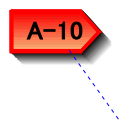
General	Operational Detail Shape	Risk shape	Control shape
Risk shape no. configuration			
<input checked="" type="radio"/> Display Risk No. (default)			
<input type="radio"/> Display Classification No.			



[Display Classification No.]

リスク図形には下右図のように Classification No.が表示されます。

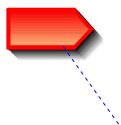
General	Operational Detail Shape	Risk shape	Control shape
Risk shape no. configuration			
<input type="radio"/> Display Risk No. (default)			
<input checked="" type="radio"/> Display Classification No.			



番号なしのリスク

Classification No.の表示を設定している場合、配置直後のリスク図形は Classification No.が未入力のため、空白のまま配置されます。

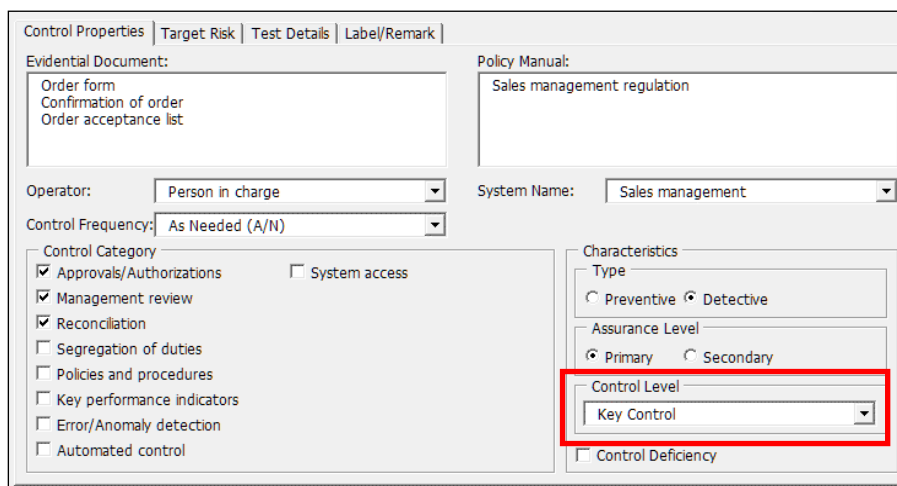
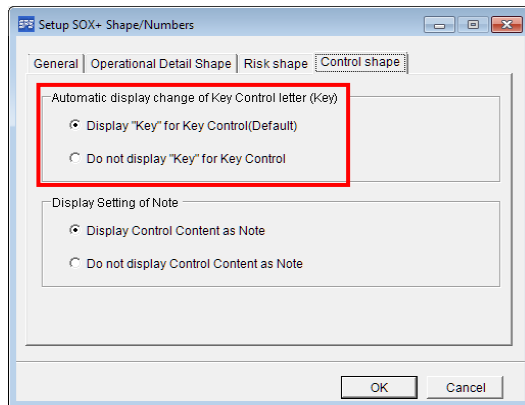
Risk ダイアログボックスで Classification No.を手入力するか、Risk dictionary からリスクを選択すると、登録された Classification No.が表示されます。



キーコントロール文字 (Key) の自動表示切替

初期設定では、コントロール図形の [Control Level] で [Key Control] を選択すると、コントロール図形の左下に「Key」と表示されます。

「Key」の文字を業務フローチャート上に表示したくない場合、[Automatic display change of Key Control letter (Key)] を使用します。



旧バージョンの配布ファイルを読み込んだ場合

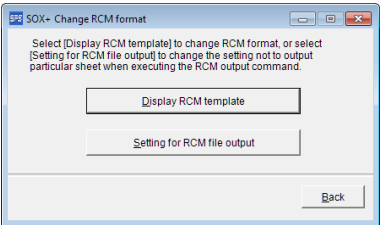
この機能がないバージョンの配布ファイルを読み込んだ場合、[Do not display “Key” for Key Control] にチェックが切り替わりますので、この機能が必要な場合は [Display “Key” for Key Control] にチェックをしてください

※ 「RCM データ出力位置の変更」 P53 参照



RCMフォーマットの変更

RCM テンプレート (SOxMatrix.xls) を表示します。RCM 出力時に特定のシートを表示しないようにする場合は、[Setting for RCM file output] で制限することができます。



RCMテンプレートの表示

RCM テンプレート (Document Info シート、Narratives シート、RCM シート) を編集します。ここでは主に列項目の表示、非表示やデータ行の書式や表示形式の変更を行います。RCM テンプレートに必要な列項目はすべて用意しています。必要に合わせて表示、非表示でフォーマットを整えてください。列の追加と削除は行わないでください。

初期設定時に非表示になっている列項目はグレーの色が付いています。

【初期設定の列項目】

A	Q	R	S	W	X
Document ID	No	Operational Detail Name	Operational Detail Content	Department/ Division	Operator

「Narratives」シート

A	M	N	T	V	X	AL	AM	AN	AO	AP	AG	BR	CD	CE	CH	CJ	CK	CL	CO
R I S K										C O N T R O L									
Document ID	No	Operational Detail Name	No	Category	Risk Content	Existence or Occurrence	Completeness	Rights and Obligations	Valuation	Allocation	Prevalence and Frequency	Document ID	No	Operational Detail Name	No	Control Content	Control Type	Control Frequency	Department/ Division

「RCM」シート

【すべての列項目を表示】

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
Document ID	Company Name	Location	ID	Process Name	ID	Sub-process Name	ID	Operation Name	Account Title	Policy Name

「Narratives」シート

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q
Document ID	Company Name	Location	ID	Process Name	ID	Sub-process Name	ID	Operation Name	Account Title	Phase	Operational Detail Object ID	No	Operational Detail Name	Account Title (Operational Detail)	Department/Division (Full Expression)	Department/Division

「RCM」シート

図形に登録した値とExcelに出力される値の関係

SOX+の「RCM Output」を実行すると、SOX+図形に入力した各データは、RCM テンプレートの決まった列にそれぞれ出力されます。

例えば、Risk shape の「Assertion」にチェックした内容は、一つ目のチェックボックスは RCM シートの第 38 (AL) 列に、二つ目のチェックボックスは第 39 (AM) 列に…というように、第 51 (AY) 列まで順に出力されます。

そのため、RCM テンプレートを編集する際は、**見出しと出力内容がずれないように注意してください。**

(列の削除・挿入は行わないでください。)

Assertion

- ☒ Existence or occurrence
- ☐ Completeness
- ☒ Rights and obligations
- ☐ Valuation
- ☐ Allocation
- ☐ Presentation and disclosure

37	38	39	40	41	42
Risk Assertions					
Existence or Occurrence	Completeness	Rights and Obligations	Valuation	Allocation	Presentation and Disclosure
	*		*		

前の列を削除した結果、見出しがずれています。

Document Informationシートの変更

見出し文字、セルの書式設定（枠罫線・フォント設定含）や背景色を変更できます。

	1	2	3
1		Document ID	S001-002-01
2			
3			
4			
5		[Company/Process Information]	
6			
7		Company Name	Sox Corporation Co
8		Location	Tokyo
9			ID
10		Process	S001
11		Sub-process	002
12		Operation	01
13			
14		[Operational Process Outline/Op	

不要な項目は、行を非表示にして隠すか、フォントの色を背景と同色にします。

データが出力されるセル以外は、自由に記述可能です。

データが出力されるセルも、フォントや罫線などの書式変更は可能です。

Narrativesシート・RCMシート・*RC Matrixシートの変更

- ① ヘッダー部
- 見出しです。内容も書式も自由に変更できます。非表示にすることもできます。

A	M	N	T	W
RISK				
Document ID	No	Operational Detail Name	No	Risk Content
①				
②				

- ② データ部
- セルの書式設定（フォント設定含）や背景色を変更できます。

注意点は以下の2点です。

- 行の高さを変更した場合は、最後に Excel の [Format] メニューの [Row] の [AutoFit] で高さが自動で変わるようにしておいてください。
- [Format Cells] の [Number] は「General」にしておいてください。
「Text」は1セルに256文字以上の文字が出力されると正常に表示されません。

データ項目数の変更に伴うRCMヘッダーの修正

「Edit data lists and articles」で Check box タイプや Radio button タイプのデータリストを変更していた場合は、必要に応じ、Narratives・RCM シートの見出しの変更、表示列の表示・非表示の定義を変更する必要があります。

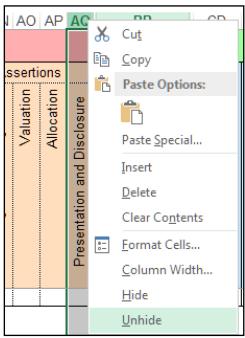
例) 6 項目の Assertion に「Accuracy」を追加し 7 項目に変更した場合

上記変更の結果、Risk ダイアログボックスは以下のようになります。

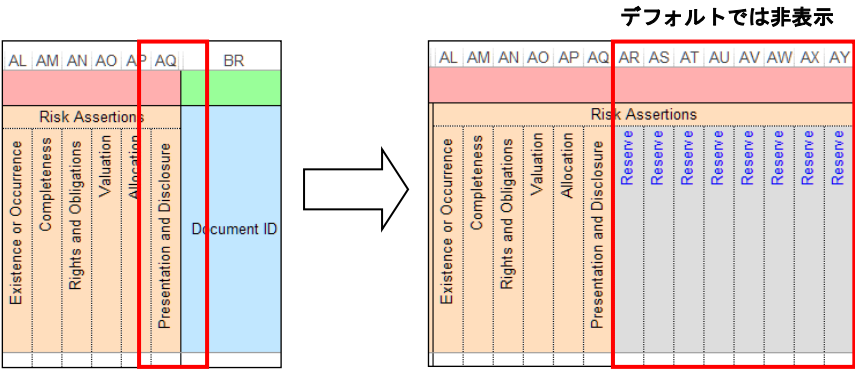
Check box の項目数変更に伴い、RCM シートの修正を行います。

X		AL	AM	AN	AO	AP	AQ	BR	CD	CE
S	K	Risk Assertions								
Risk Content		Existence or Occurrence	Completeness	Rights and Obligations	Valuation	Allocation	Presentation and Disclosure	Document ID	No	Operational Detail Name
Risk of accepting an unsolicited or false order		*	*					S001-002-01	7	Outputting confirmation of an order
								S001-002-01	8	Approval
								S001-002-01	12	Sales management system
								S001-002-01	12	Sales management system
								S001-002-01	14	Credit management system
								S001-002-01	16	Sales management system

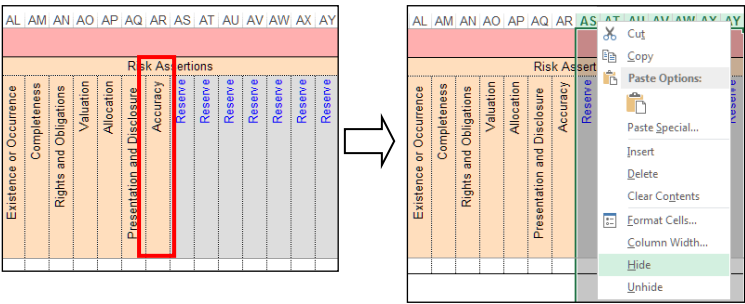
Assertion には、項目追加用に予備の列が用意されています。Assertion の後ろの列を再表示させるため、非表示の列を挟むようにして列をまとめて選択します。



「Unhide」メニューを選択します。



予備の列が表示されるので、追加した項目のタイトルを記入します。



必要に応じて、フォントの色や背景色も変更します。

必要の無い列は再び非表示に戻します。

印刷ヘッダーの編集

RCM テンプレートの印刷ヘッダーは、出力用変数を利用して SOX+の [Document Info] に登録した値を出力することができます。

出力用変数は、Document Info の項目に登録した値を印刷ヘッダーに出力できるように用意したものです。Document Info の項目すべての出力用変数を用意しています。

※AdministratorKit で Document Info の項目名を変更した場合は、その名前と読み替えてください。

Document Info の項目	出力用変数	Document Info の項目	出力用変数
Document ID	%DiagramID%	Person Responsible	%ManagerName%
Company Name	%CompanyName%	Person in Charge	%StaffName%
Location	%BusinessPlace%	Version	%Version%
Process ID	%ProcessNo%	Status	%Status%
Process Name	%ProcessName%	Documenter	%CreateStaff%
Sub-process ID	%SubProcessNo%	Documentation Date	%CreateDate%
Sub-process Name	%SubProcessName%	Last Updated by	%LastModifyStaff%
Operation ID	%DiagramNo%	Last Updated on	%LastModifyDate%
Operation Name	%DiagramName%	Last Approved by	%ApprovalStaff%
Account Title	%Account%	Last Approved on	%ApprovalDate%
System Name	%SystemName%	Summary	%Summary%
Vouchers and Other Forms Use	%Document%	Supplemental Info	%SupplementalRemarks%
Policy Manual	%Regulations%	Remark	%Remarks%
Department/ Division	%SectionName%		

出力用変数は、「RCM」シートの印刷ヘッダー「**Left Section**」と「**Right Section**」のみに設定します。この設定情報を SOX+の RCM 出力時に読み込み、SOX+画面でアクティブ（最前面）になっている文書の「Document Info」の対応する値に置き換えられ、「Narratives」「RCM」シートの「**Left Section**」「**Right Section**」の印刷ヘッダーに出力します。

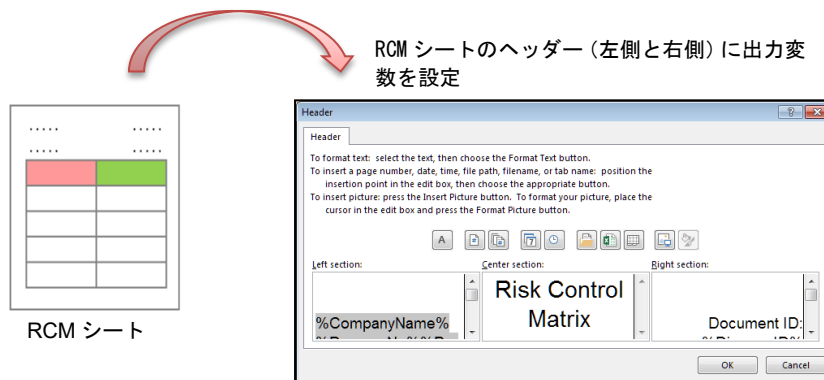
印刷ヘッダーの設定時に RCM シートが表示されていない場合は、[Setting for RCM file output] で表示させてください。

1. 出力用変数の設定

RCMシートの [Page Setup] を開き、[Header/Footer] ボタンをクリックします。

左側と右側に出力用変数を設定します。

中央部は「タイトル」です。タイトルのみ、各シートごとに入力します。



初期設定のヘッダー定義は以下の通りです。

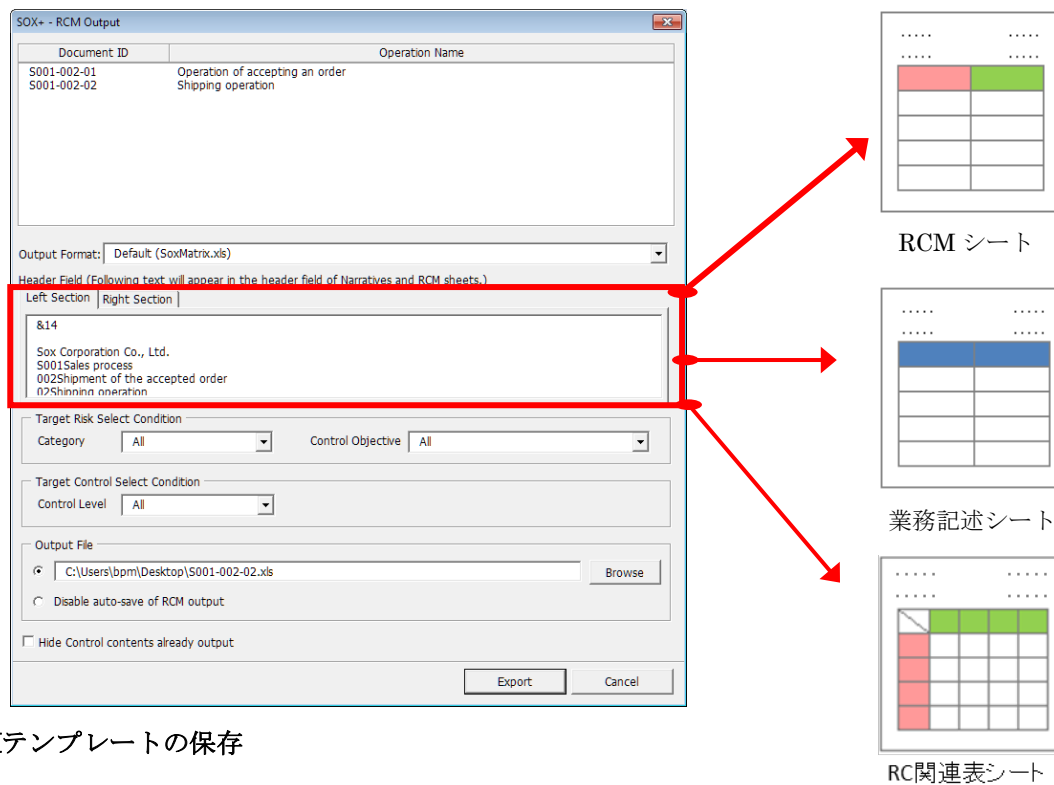
ヘッダー部位	設定内容
Left section	%CompanyName% %ProcessNo%%ProcessName% %SubProcessNo%%SubProcessName% %DiagramNo%%DiagramName%
Center section [固定]	Risk Control Matrix
Right section	Document ID : %DiagramID% Documentation Date : %CreateDate% Last Updated on : %LastModifyDate%

通常、Excel のヘッダーには 250 文字程度しか文字が入りません。印刷ヘッダーに入力する文字数と、出力用変数から変換される文字数を考慮して、出力用変数を設定してください。

2. RCM Output

RCM シートの印刷ヘッダーに登録した出力用変数は、業務フローチャートを RCM Output する際に読み込まれ、出力用変数に対応する Document Info の値に変換されます。

変換されたヘッダー情報は、「Narratives」「RCM」*「RC Matrix」シートの印刷ヘッダーに出力されます。

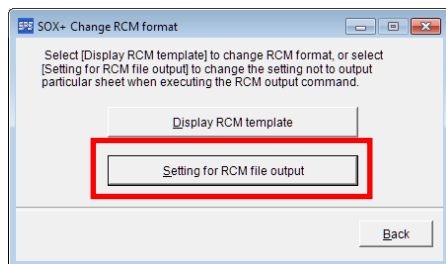


RCMテンプレートの保存

必要な編集が終わったら、RCM テンプレートを上書保存して Excel を閉じます。

RCM出力情報の設定

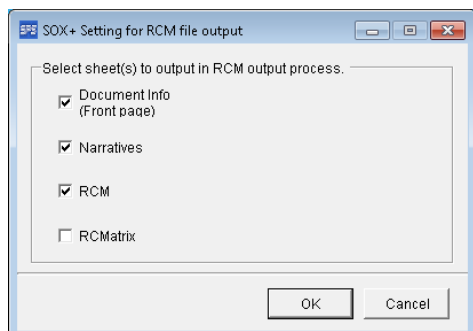
「Setting for RCM file output」を選択すると、RCM 出力時の表示シートを限定することができます。



「Document Info(Front page)」、「Narratives」、「RCM」、*「RC Matrix」の3項目が表示されますので、RCM 出力時に必要のないシートは、チェックをはずしてシートを非表示にします。

※ 「RC Matrix」項目は、SOX+ 整備/運用評価オプションご利用ユーザーのみ表示されます。

「RC Matrix」シートについては『SOX+ Design/Operating Evaluation Option User Guide』をご覧ください。



RCMデータ出力位置の変更

Narratives・RCM の列項目の表示・非表示の指定、そして並び順やデータのソート順を設定することができます。

データ出力位置の変更をする前に

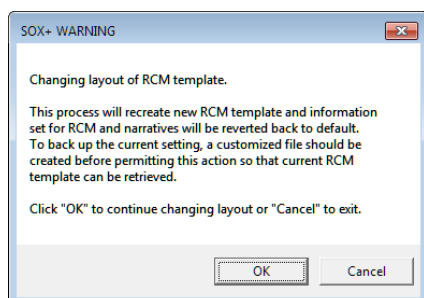
- ・ 配布ファイルを作成しておく、いつでも [Customized file creation history] 機能より元の状態に戻すことができます。
- ・ RCM テンプレートを開き、別名で保存しておきます。[Change data output position] で新しく作られるテンプレートは書式などが全て初期化されていますので、編集の参考になるものと便利です。

	A	M	N	T	W	X	AL	AM
1								
2								
3								
4								
5								
6	Document	Operational Detail	Inf	Risk	Information			
7	R	I	S	K				
8	Document No	Operations No	Label	Risk Conte	Risk Assertions			
9	Document	Operations	Operations Risk No	Label	Risk Conte	Risk Asse	Risk Asse	
10								
11								
12								
13								

初期化された RCM テンプレート

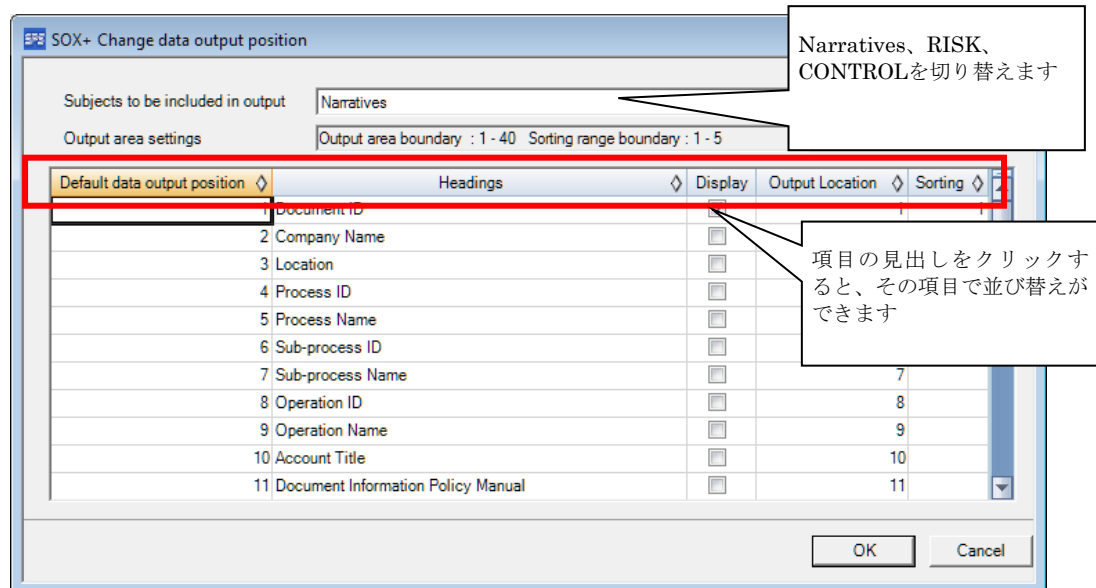
最初の警告メッセージ

[Change data output position] ボタンをクリックすると、WARNING メッセージが表示されます。データ出力位置変更を実行するとそれまで編集してきた RCM テンプレートは削除され、初期化された新しいテンプレートが作られます。これまでの RCM テンプレートを残したい場合は、事前に配布ファイルを作成する等行ってから本機能を実行してください。



RCMデータ出力位置の変更

出力対象項目を「Narratives」「RISK」「CONTROL」に切替えると、対象の項目が表示されます。
項目名は変更できません。項目名の変更は、この設定後に作成された RCM テンプレートで変更してください。




項目	説明
Subjects to be included in output	編集対象を選択します。Narratives（Narrativesシート）、RISK（RCMシート左側のリスク部）、CONTROL（RCMシート右側のコントロール部）の3箇所を編集可能です。
Output area settings	選択した出力対象項目で、項目の出力位置として指定可能な範囲（列数）と、ソート項目として指定可能な項目数を表示しています。 RCMシートについてはリスク項目とコントロール項目が混在しないように、リスク領域とコントロール領域に分けて、それぞれの中での位置の変更を行います。 リスクは1-51列の範囲で、コントロールは51-133列の範囲内で変更します。
Default data output position	項目の初期設定の出力位置を表示しています。 タイトル部をクリックするとこの順でソートされます。
Headings	並び替えの対象となる項目名です。 最後にOKボタンを押すと、この項目名が指定された順に並べられてRCMテンプレートが作成されます。 この項目名は固定です。既に「Edit data lists and articles」で名前を別のものに变更している場合は、作成されたテンプレートを修正してください。
Display	作成するRCMの列の表示・非表示を指定できます。 表示・非表示の切り替え自体は、「Change RCM format」機能で後からいつでも変更できます。
Output Location	位置を変更したい項目を指定してダブルクリックし、順目の数字を入力することができます。入力後に自動で数字が詰められます。 タイトルをクリックするとソートできます。
Sorting	RCM出力時にソートキーとして使われる項目を指定できます。（昇順） 初期設定では出力情報は「Document ID」で文書順に並び、次に文書の中では「図形ナンバー」順に並ぶように設定されています。通常は変更の必要はありません。

出力位置の編集時に、ある項目を n 番目と m 番目の項目の間に移動したい場合は、近い方の数字を入力します。

例えば 8 番の項目を 10 と 11 の間に移動したい場合は、8 番目の項目の出力位置を「10」に変更します。それに伴い、初期位置 9 番目の項目が 8 へ、10 番目の項目が 9 へと自動的に繰り上がります。


Headings	Display	Output Location	Sorting
1 Document ID	<input checked="" type="checkbox"/>	1	1
2 Company Name	<input type="checkbox"/>	2	
3 Location	<input type="checkbox"/>	3	
4 Process ID	<input type="checkbox"/>	4	
5 Process Name	<input type="checkbox"/>	5	
6 Sub-process ID	<input type="checkbox"/>	6	
7 Sub-process Name	<input type="checkbox"/>	7	
8 Operation ID	<input type="checkbox"/>	8	
9 Operation Name	<input type="checkbox"/>	9	
10 Account Title	<input type="checkbox"/>	10	
11 Document Information Policy Manual	<input type="checkbox"/>	11	



Headings	Display	Output Location	Sorting
1 Document ID	<input checked="" type="checkbox"/>	1	1
2 Company Name	<input type="checkbox"/>	2	
3 Location	<input type="checkbox"/>	3	
4 Process ID	<input type="checkbox"/>	4	
5 Process Name	<input type="checkbox"/>	5	
6 Sub-process ID	<input type="checkbox"/>	6	
7 Sub-process Name	<input type="checkbox"/>	7	
8 Operation ID	<input type="checkbox"/>	10	
9 Operation Name	<input type="checkbox"/>	8	
10 Account Title	<input type="checkbox"/>	9	
11 Document Information Policy Manual	<input type="checkbox"/>	11	

17 番の項目を 10 と 11 の間に移動したい場合は、近い数字の「11」を入力します。初期設定値 11 番目から 16 番目の項目の位置が 1 つずつ繰り下がります。

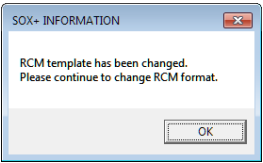
Headings	Display	Output Location	Sorting
9 Operation Name	<input type="checkbox"/>	9	
10 Account Title	<input type="checkbox"/>	10	
11 Document Information Policy Manual	<input type="checkbox"/>	11	
12 Document Information Vouchers and Other Forms Used	<input type="checkbox"/>	12	
13 Document Information System Name	<input type="checkbox"/>	13	
14 Phase	<input type="checkbox"/>	14	
15 For sorting operation numbers	<input type="checkbox"/>	15	2
16 Operational Detail ObjectID	<input type="checkbox"/>	16	
17 Operational Detail No	<input checked="" type="checkbox"/>	17	
18 Operational Detail Name	<input checked="" type="checkbox"/>	18	
19 Operational Detail Content	<input checked="" type="checkbox"/>	19	



Headings	Display	Output Location	Sorting
9 Operation Name	<input type="checkbox"/>	9	
10 Account Title	<input type="checkbox"/>	10	
11 Document Information Policy Manual	<input type="checkbox"/>	12	
12 Document Information Vouchers and Other Forms Used	<input type="checkbox"/>	13	
13 Document Information System Name	<input type="checkbox"/>	14	
14 Phase	<input type="checkbox"/>	15	
15 For sorting operation numbers	<input type="checkbox"/>	16	2
16 Operational Detail ObjectID	<input type="checkbox"/>	17	
17 Operational Detail No	<input checked="" type="checkbox"/>	11	
18 Operational Detail Name	<input checked="" type="checkbox"/>	18	
19 Operational Detail Content	<input checked="" type="checkbox"/>	19	

でき上がり予定の順番をあらかじめ計画してから変更を実行すると、効率よく変更することができます。

変更したい項目の指定が済んだら、「OK」ボタンを押して RCM テンプレートを生成します。



完了のメッセージが出たら、AdministratorKit のメニューから [Display RCM template] を選んで、新しい RCM テンプレートを開いてください。

1	A	M	N	T	W	X	AL	AM	AN	AO	AP	AQ	AR	BR	CD	
2																
3																
4																
5																
6	Document Operational Detail Info Risk Information													Document Operation		
7	R I S K													C O N		
8	Document No		Operations No		Label	Risk Conte	Risk Assertions						Document No			
9	Document Operations		Operations Risk No		Label	Risk Conte	Risk Asse	Risk Asse	Risk Asse	Risk Asse	Risk Asse	Risk Asse	Risk Asse	Document Operation		
10	Document ID		No		Operational Detail Name		No	Category	Risk Content				Existence or Occurrence Completeness Rights and Obligations Valuation Allocation Presentation and Disclosure		Document ID No	
9	S001-002-01		3		Operation of inputting acceptance of an order		R1		Risk of accepting an unsolicited or false order.				* *		S001-002-01 7 Out of order	

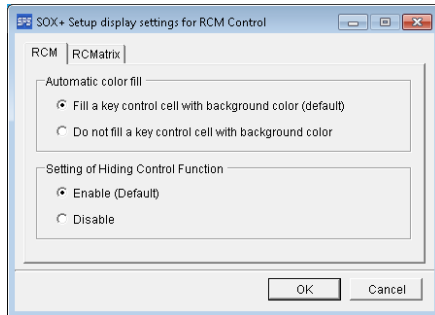
事前に別名で保存していた元の RCM テンプレートなどを参考にしながら、項目名、列の表示・非表示や列幅の設定・フォントの書式やセルの背景色などの書式を整えてください。

※書式編集の詳細は、RCM フォーマットの変更(P45)を参照してください。

RCMコントロール表示設定

RCM テンプレートのコントロール表示の設定を変更することができます。

- ※ 「RC Matrix」 タブは、SOX+ 整備/運用評価オプションご利用ユーザーのみ表示されます。
「RC Matrix」の詳細については『SOX+ Design/Operating Evaluation Option User Guide』をご覧ください。

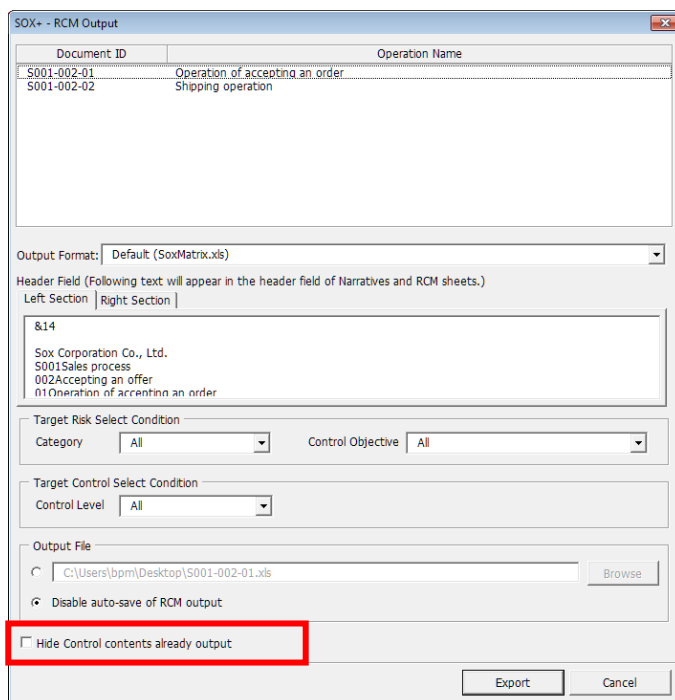


キーコントロール対象行へのセル色自動変更の設定切替

SOX+の初期設定では、Control の「Control Level」項目に「Key Control」が設定されていると、RCM 出力時に RCM シートの「Key Control」の行を「青」にして出力します。
ここでは、この機能の ON/OFF を選択できます。

既出コントロール非表示切替機能

RCM 出力時の「RCM Output」ダイアログボックスの「Hide Control contents already output」チェックボックス表示（初期設定）を非表示にすることができます。



RCM シートでは、左側にリスク、右側に各リスクをターゲットとしているコントロールが並びます。

コントロールが複数のリスクをターゲットとしている場合、リスクの数だけ同一内容のコントロールが繰り返し出力されます。

No	Operational Detail Name	No	Category	Risk Content	Risk Assertions				Document ID	No	Operational Detail Name	No	Control Content
					Existence or Occurrence	Completeness	Rights and Obligations	Valuation					
3	Operation of inputting acceptance of an order	R1		Risk of accepting an unsolicited or false order.	*	*			S001-002-01	7	Outputting confirmation of an order	C1	Issue a confirmation of order without false details.
									S001-002-01	8	Approval	C2	A person in charge must review details acceptance sheet, such as unit cost, etc., before approving it.
									S001-002-01	12	Sales management system	C4	Limit the means of receiving the order for EDI.
									S001-002-01	12	Sales management system	C5	Data in the master can be used when in acceptance data.
									S001-002-01	14	Credit management system	C6	Properly secure access to the data or the system controls the master.
3	Operation of inputting acceptance of an order	R2		Risk of losing the order form data and missing a sales chance.	*				S001-002-01	12	Sales management system	C4	Limit the means of receiving the order for EDI.
									S001-002-01	16	Sales management system	C7	Order lists and confirmations of order are order automatically.
3	Operation of inputting acceptance of an order	R3		Risk of delivering the wrong order because of an input error.	*	*			S001-002-01	8	Approval	C2	A person in charge must review details acceptance sheet, such as unit cost, etc., before approving it.
									S001-002-01	12	Sales management system	C5	Data in the master can be used when in

例) C2が複数リスクをターゲットとしている場合のRCM

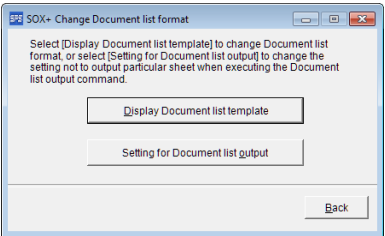
RCM 出力の際に [Hide Control contents already output] にチェックを入れると、既出コントロールの Document ID と No のみ表示させ、他の項目は非表示になります。

No	Operational Detail Name	No	Category	Risk Content	Risk Assertions				Document ID	No	Operational Detail Name	No	Control Content
					Existence or Occurrence	Completeness	Rights and Obligations	Valuation					
3	Operation of inputting acceptance of an order	R1		Risk of accepting an unsolicited or false order.	*	*			S001-002-01	7	Outputting confirmation of an order	C1	Issue a confirmation of order without false details.
									S001-002-01	8	Approval	C2	A person in charge must review details acceptance sheet, such as unit cost, etc., before approving it.
									S001-002-01	12	Sales management system	C4	Limit the means of receiving the order for EDI.
									S001-002-01	12	Sales management system	C5	Data in the master can be used when in acceptance data.
									S001-002-01	14	Credit management system	C6	Properly secure access to the data or the system controls the master.
3	Operation of inputting acceptance of an order	R2		Risk of losing the order form data and missing a sales chance.	*				S001-002-01	16	Sales management system	C7	Order lists and confirmations of order are order automatically.
									S001-002-01	8	Approval	C2	A person in charge must review details acceptance sheet, such as unit cost, etc., before approving it.
3	Operation of inputting acceptance of an order	R3		Risk of delivering the wrong order because of an input error.	*	*			S001-002-01	12	Sales management system	C5	Data in the master can be used when in
									S001-002-01	12	Sales management system	C5	Data in the master can be used when in

例) [Hide Control contents already output] 機能を使用して出力したRCM

帳票一覧フォーマットの変更

帳票一覧テンプレート (DocumentList.xls) を表示します。使用帳票／証憑一覧出力時に特定のシートを表示しないようにする場合は、[Change Document list format] で制限することができます。



帳票一覧テンプレートの表示

帳票一覧テンプレート（Form List シートと Evidence List シート）を編集します。ここでは主に列項目の表示、非表示やデータ行の書式や表示形式の変更を行います。帳票一覧テンプレートに必要な列項目はすべて用意しています。必要に合わせて表示、非表示でフォーマットを整えてください。
列の追加と削除は行わないでください。

初期設定時に非表示になっている列項目はグレーの色が付いています。

※詳細については RCM フォーマットの変更 P45 をご覧ください。

【初期設定の列項目】

A	L	O	P	T	U
Document ID	Vouchers and Other Forms Used	No	Operational Detail Name	Department/ Division	Operator

「Form List」シート

A	K	N	O	R	U	V	Y	Z	AS
Document ID	Evidential Document	No	Operational Detail Name	No	Control Type	Control Frequency	Department/ Division	Operator	Control Level

「Evidence List」シート

【すべての列項目を表示】

A	B	C	D	E	F	G	H	I
Document ID	Company Name	Location	ID	Process Name	ID	Sub-process Name	ID	Operation Name

「Form List」シート

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
Document ID	Company Name	Location	ID	Process Name	ID	Sub-process Name	ID	Operation Name	Account Title	Evidential Document

「Evidence List」シート

使用帳票一覧シート・証憑一覧シートの変更

① ヘッダー部

見出しです。内容も書式も自由に変更できます。非表示にすることもできます。

A	L	O	P	T	U
Document ID	Vouchers and Other Forms Used	No	Operational Detail Name	Department/ Division	Operator

② データ部

セルの書式設定（フォント設定含）や背景色を変更できます。

注意点は以下の 2 点です。

- ・ 行の高さを変更した場合は、最後に Excel の [Format] メニューの [Row] の [AutoFit] で高さが自動で変わるようにしておいてください。
- ・ [Format Cells] の [Number] は「General」にしておいてください。
「Text」は 1 セルに 256 文字以上の文字が出力されると正常に表示されません。

印刷ヘッダーの編集

出力用変数は、「Evidence List」シートの印刷ヘッダー「Left Section」と「Right Section」のみに設定します。

この設定情報を SOX+の使用帳票／証憑一覧出力時に読み込み、SOX+画面でアクティブ（最前面）になっている文書の「Document Info」の対応する値に置き換えられ、「Form List」「Evidence List」シートの「Left Section」「Right Section」の印刷ヘッダーに出力します。

印刷ヘッダーの編集方法は、RCM テンプレートの印刷ヘッダー設定と同じです。

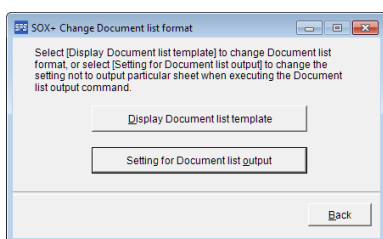
※詳細については、印刷ヘッダーの編集(P50)をご覧ください。

帳票一覧テンプレートの保存

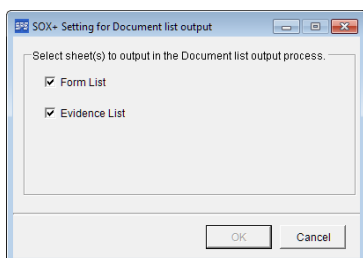
必要な編集が終わったら、帳票一覧テンプレートを上書保存して Excel を閉じます。

帳票一覧出力情報の設定

「Change Document list format」を選択すると、使用帳票／証憑一覧出力時の表示シートを限定することができます。



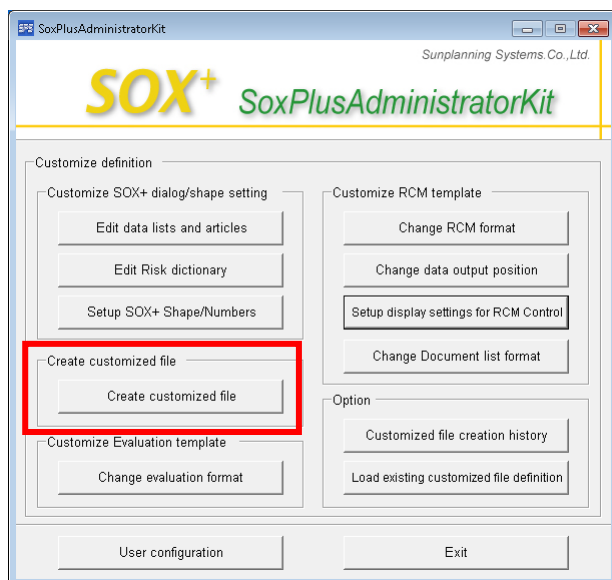
「Form List」、「Evidence List」の 2 項目が表示されますので、使用帳票／証憑一覧出力時に必要のないシートは、チェックをはずしてシートを非表示にします。



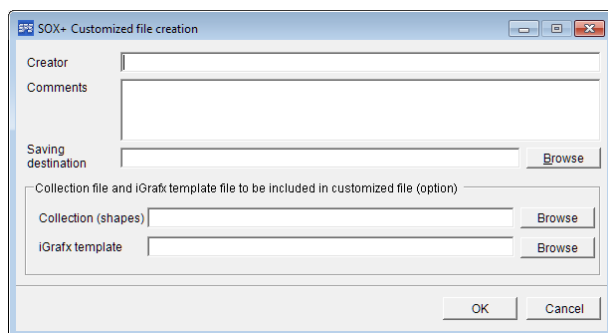
第6章 配布ファイル作成

AdministratorKit でカスタマイズした設定内容を SOX+に反映させるための配布ファイルを作成します。

作成した配布ファイルをクライアント PC に取込む方法については「SOX+ユーザーズガイド (Chapter 4 Import Function for Customized File)」をご覧ください。



AdministratorKit で項目名や RCM フォーマットを変更しただけでは SOX+に反映されていません。設定変更を行った場合は、忘れずに配布ファイルを作成してください。



内容	説明
Creator Comments	この配布ファイルの作成者情報、変更点や変更の際の注記などを入力します。SOX+で配布ファイルを取り込んだときに表示されます。
Saving destination (指定必須)	作成した配布ファイルの保存先とファイル名を指定します。
Collection file and iGrafx template file to be included in customized file (option)	iGrafxで作成した、自社用の図形集やiGrafxドキュメントのひな形（テンプレート）を各クライアントPCに導入するために、配布ファイルに添付することができます。

※ AdministratorKit バージョン 6 より「配布先ユーザーのカスタマイズ定義データの取込位置の指定」機能が廃止になりました。作成した配布ファイルは自動的に「Each user」設定で保存されます。

※ 同じ PC にインストールされた SOX+を、ユーザーを切り替えて複数人で使用している場合、それぞれのユーザーで配布ファイルの取り込みが必要です。

配布ファイルの設定項目

保存先

配布ファイルのファイル名と、保存先フォルダを指定します。

[Browse] ボタンをクリックして保存先を選択し、配布ファイルの名称を入力してください。配布ファイルの拡張子は「.igs」です。名前に「.」（ピリオド）が入ったファイル名をつけた場合は、拡張子が自動でつかない場合があります。その場合は、作成を実行する前に拡張子を手動で付けてください。



配布ファイルに同梱するコレクション・iGrafxテンプレートファイル

iGrafx FlowCharter で作成した図形集（コレクション）や iGrafx テンプレートを、配布ファイル作成時に同梱することができます。

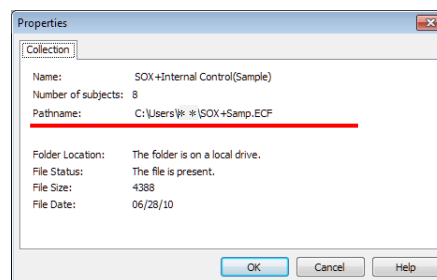
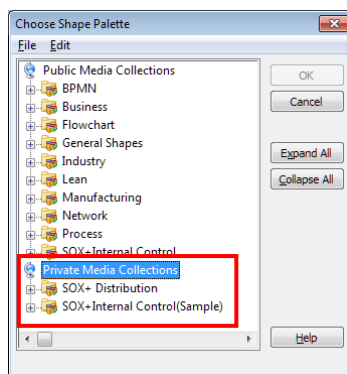
SOX+で配布ファイルを取り込むと自動的に必要な保存場所に展開されます。

それぞれのファイルが保存される場所は、以下の通りです。

■図形集（コレクション）

個人用メディアコレクションの中に展開されます。iGrafx で「F9」を押して [Choose Shape Palette] ダイアログを表示します。表示された [Choose Shape Palette] ダイアログでフォルダを選択し、右クリックでプロパティを開きます。

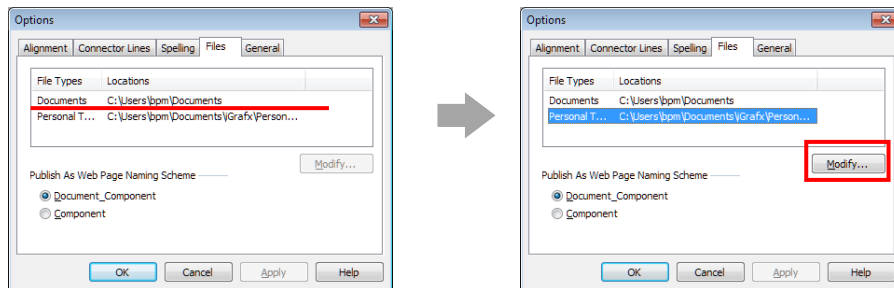
パスに記載された場所に保存されています。



■テンプレート

個人用テンプレートフォルダに展開されます。iGrafx の [Tools] メニューの [Options] を開き [Files] タブを表示します。

個人用テンプレートの保存場所は、[Modify] ボタンで自由に変更することができます。



※配布ファイルを取り込むと、添付された*.ecf/*.sbj ファイル、*.igt ファイルは所定のフォルダに保存されます。(同名のファイルがあれば上書きします。)

間違って保存されたファイルや不要になったファイルができた場合は、ファイルを所定のフォルダから直接削除してください。

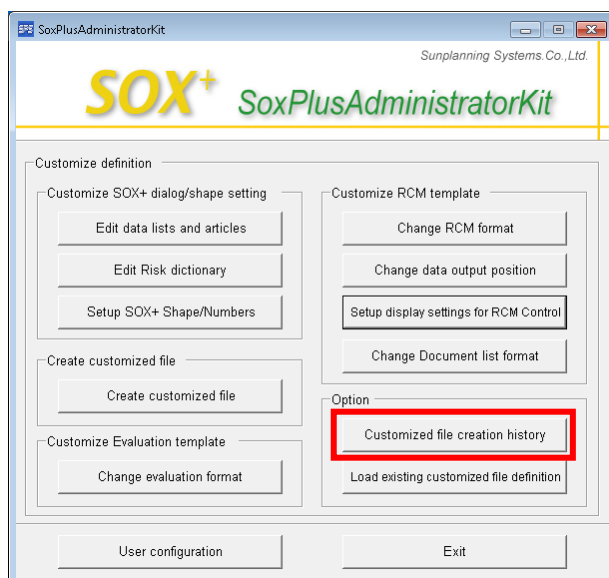
配布先ユーザーのカスタマイズ定義データの取込位置

各クライアント PC で配布ファイルの取込を実行すると、取り込んだ定義データは以下の場所に保存されます。配布ファイルの取り込みには、以下のフォルダが編集できる状態になっている必要があります。

C:\Users\「ユーザー名」\AppData\Roaming\iGrafx\SOX_Plus

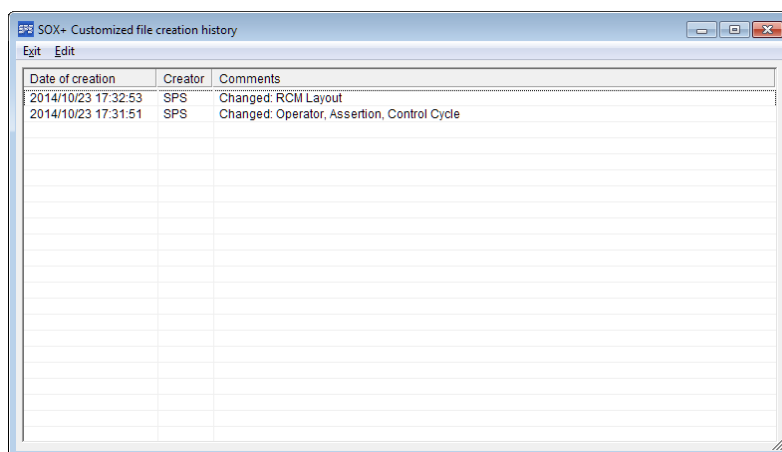
第7章 配布ファイルの履歴管理

配布ファイルを作成した時点で履歴が更新されます。作成履歴の確認や、履歴から復元することができます。



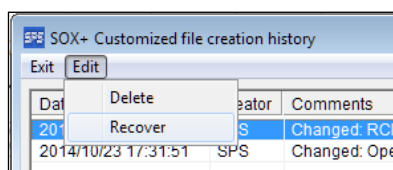
配布ファイル作成履歴

「Customized file creation history」ボタンをクリックし「SOX + Customized file creation history」ダイアログボックスを開きます。これまでに作成した配布ファイルの履歴を確認することができます。ただし、確認できるのはユーザーがこのPCで作成したもののだけです。他のPCで作成したものや、別のユーザーが作成したものは確認できません。



内容	説明
Date of creation	配布ファイルを作成した日時が表示されます。
Creator	配布ファイルの作成者が表示されます。
Comments	配布ファイルのコメントが表示されます。

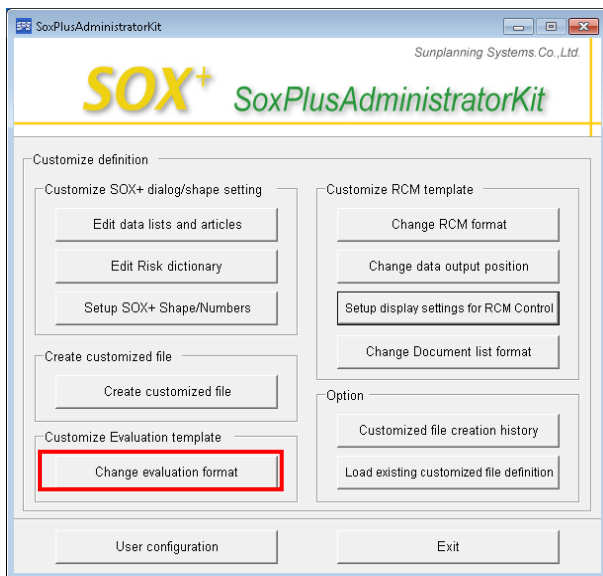
履歴を選択して、[Edit] メニューから [Recover] を選択すると、選択されている履歴の設定を読み込むことができます。確認を求められますので、[OK] ボタンをクリックすると、現在の設定が消去され、履歴の設定に置き換わります。



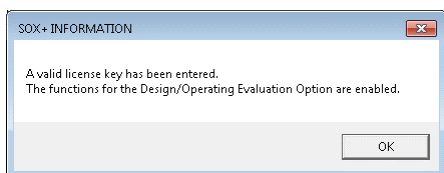
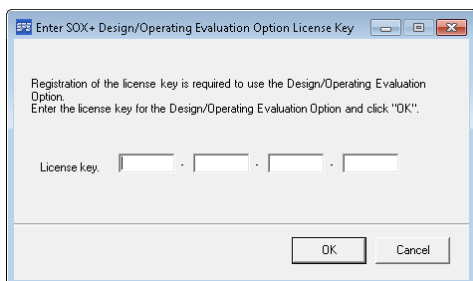
第8章 整備/運用評価テンプレートカスタマイズ

SOX+ 整備/運用評価オプションで追加される評価表テンプレートのカスタマイズを行います。

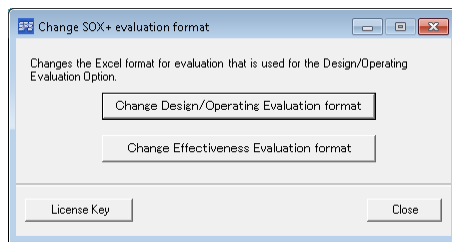
※本機能は、SOX+ 整備/運用評価オプションをご購入のお客様のみご利用頂くことができます。ご購入されたお客様は必ずライセンスキーを入力してください。



「Change evaluation format」ボタンをクリックし、ライセンスキーを入力し「OK」ボタンをクリックします。



ライセンスキーを入力することで、「Change evaluation format」機能が利用可能になると同時に、「Customize SOX+ dialog/shape setting」の中の「Edit data lists and articles」(P17)にも、SOX+ 整備/運用評価オプションで追加されるダイアログボックス画面の修正用項目が追加されます。



「Change Design/Operating Evaluation format」は「Operation/Control Evaluation List」テンプレートファイル (SOx OptionControl.xls) を Excel で編集し、表示する情報や書式設定、印刷ヘッダーなどを変更することができます。

「Change Effectiveness Evaluation format」は「Risk/Overall Evaluation List」テンプレートファイル (SOx OptionRisk.xls) を Excel で編集し、表示する情報や書式設定、印刷ヘッダーなどを変更することができます。

- ・ 「Operation Evaluation」シート、「Control Evaluation」シート、「Evaluation Sheet」シート、「Risk Evaluation」シート、「Overall Evaluation」シートで列の表示・非表示の切り替えを行います。
- ・ 各シートのテキスト（見出し・項目名）を変更します。
特に「Edit data lists and articles」で項目名の変更や、チェックボックス、ラジオボタンなどのデータリストの修正を行った場合、それに合わせて見出しの変更を行います。（手動）
- ・ 各シートの書式の編集を行います。
- ・ 印刷ヘッダーの編集を行います。

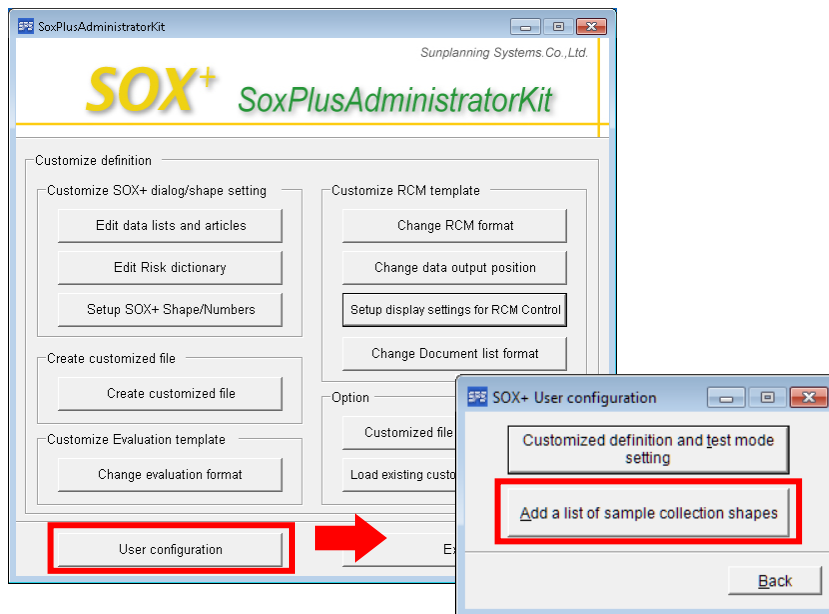
列の入れ替え、および列の挿入・削除はできません。正しく出力されなくなります。

SOX+ 整備/運用評価オプションで追加される各評価表の項目リストなど、さらに詳しい操作については、『SOX+ Design/Operating Evaluation User Guide』をご参照ください。

SOX+ 整備/運用評価オプションの機能を利用できなくしたい場合は、「Change evaluation format」画面の左下にある「License Key」ボタンから、ライセンス入力画面を開き、ライセンスキーをすべて削除してください。

第9章 サンプル図形集

SOX+のインストール時に用意されている SOX+図形以外に SOX+のフロー作成で利用できる図形集を追加することができます。

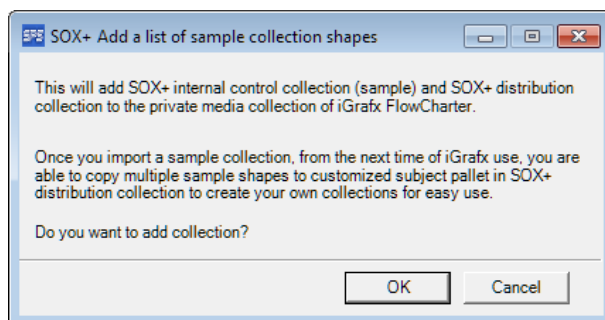


サンプルコレクション図形集の追加

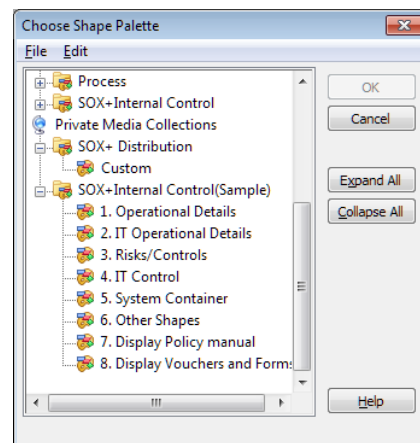
図形集はフォルダとシートで構成されており、フォルダを「コレクション」、シートを「サブジェクト」と言います。ここでいう「コレクション」はサブジェクトも含めた総称を表します。

[Add a list of sample collection shapes] ボタンをクリックすると、以下のダイアログボックスが表示されます。

[OK] ボタンをクリックします。



サンプルコレクションは、iGrafx FlowCharter の図形パレット（個人用メディアコレクション）に追加されます。追加されたサンプルコレクションの確認は、iGrafx FlowCharter を起動してください。



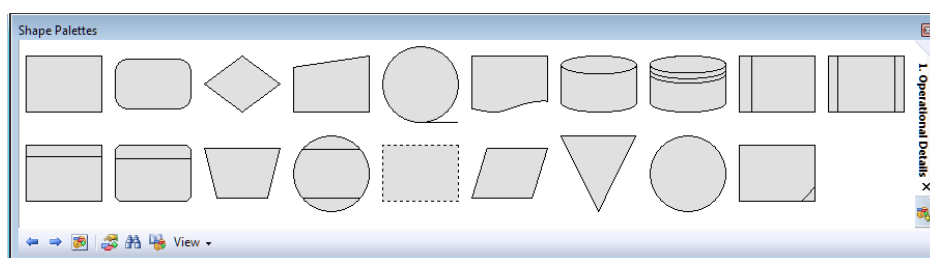
サンプルコレクションの紹介

サンプルコレクションの各サブジェクトに登録されているサンプル図形を紹介します。

【SOX+ Distribution】コレクションの[Custom]サブジェクトは、図形集を作成するための空のシートです。自社用の図形集を作成する際にご利用ください。

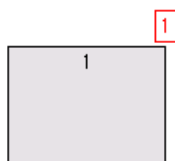
Operational Details

Operational Detail ダイアログボックスを開くことのできる SOX+図形です。



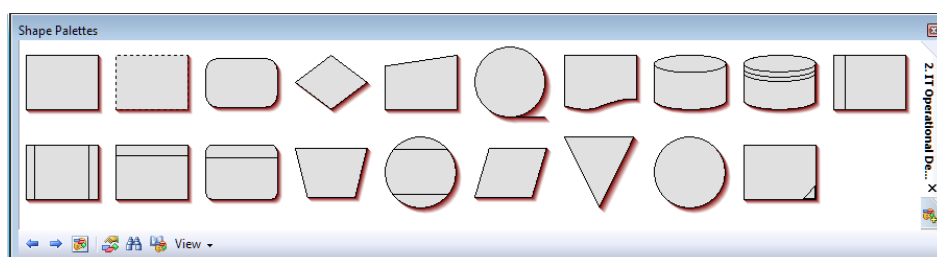
すべての図形の名称は、Operational Detail [_SOX+] と登録してあります。名前を変更したい場合は、「_SOX+」を消さないようにすれば、それより前の部位の変更が可能です。

図形番号を表示させたときに右上に枠付きの赤文字で表示されるよう設定されています。



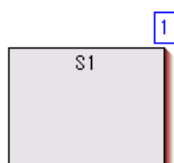
IT Operational Details

IT Operational Detail ダイアログボックスを開く事のできる SOX+図形です。



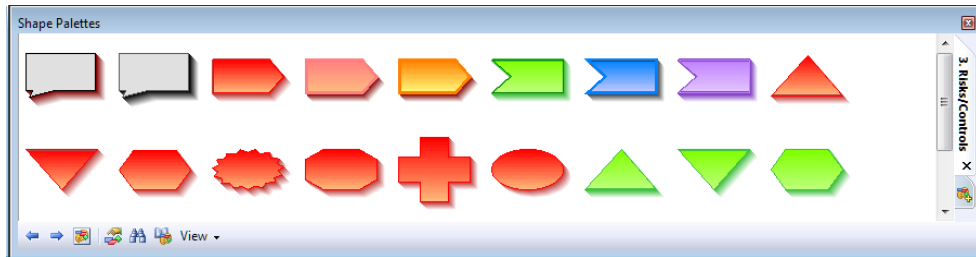
各図形の名称は、IT Operational Detail 「_SOX+AP」 と登録してあります。名前を変更したい場合は、「_SOX+AP」を消さないようにすれば、それより前の部位の変更が可能です。

図形番号を表示させたときに右上に枠付きの青文字で表示されるよう設定されています。



Risks/Controls

Risks/Controls には、図形に添付する形の Operational Detail shape や、Risk shape や Control shape の色違い、形違いのサンプルを用意しています。



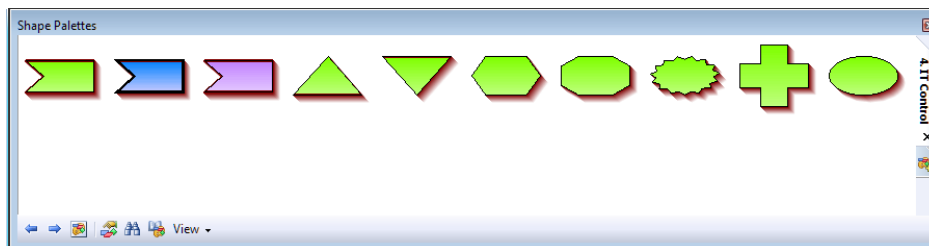
色や形の気に入った物をコピーして、Custom に貼り付けてすぐに利用することができます。

名前を変更したい場合は、Operational Detail shape は「_SOX+A」、IT Operational Detail shape は「_SOX+IA」、Risk shape は「SOX+R」、Control shape は「SOX+C」を消さないようにすれば、それより前の部位の変更は可能です。

例) Control 「SOX+C」 を Manual Control 「SOX+C」 に変更 など。

IT Control

IT Control shape です。



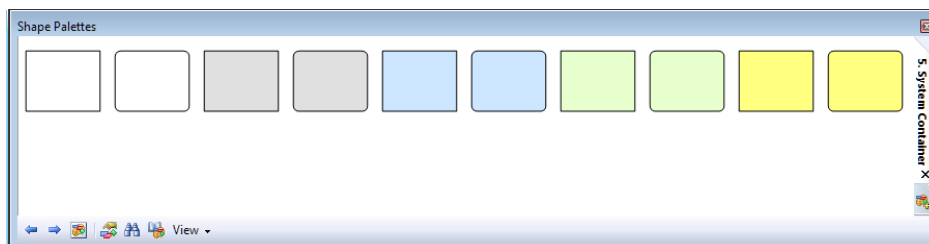
すべての図形の名称は、IT Control 「SOX+IC」 と登録してあります。色や形の気に入った物をコピーして、カスタムに貼り付けてすぐに利用することができます。

名前を変更したい場合は「SOX+IC」を消さなければ、それより前の部位の変更は可能です。

例) IT Control 「SOX+IC」 を Automated Control 「SOX+IC」 に変更 など。

System Container

System Container には、System Container shape の色違い、形違いのサンプルを用意しています。

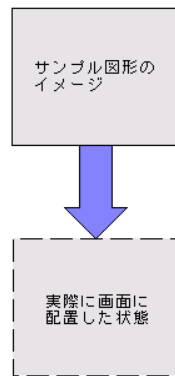
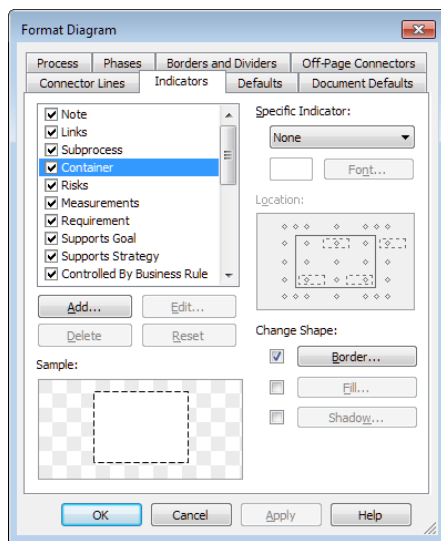


すべての図形の名称は、System Container 「_SOX+SC」 と登録してあります。色や形の気に入った物をコピーして、Custom に貼り付けてすぐに利用することができます。

System Container shape がフロー上に配置されると、ファイルに設定されている Container shape の

Indicators の設定に合わせて書式が反映されます。

初期設定では、以下の Indicators が設定されています。



Container の Indicators に枠線の設定がされているので、画面上に配置するとサブジェクト上の図形イメージと違う設定で配置されます。

画面上に配置したときの表示を変更したい場合は、こちらでファイルの設定を変えてください。

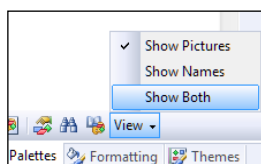
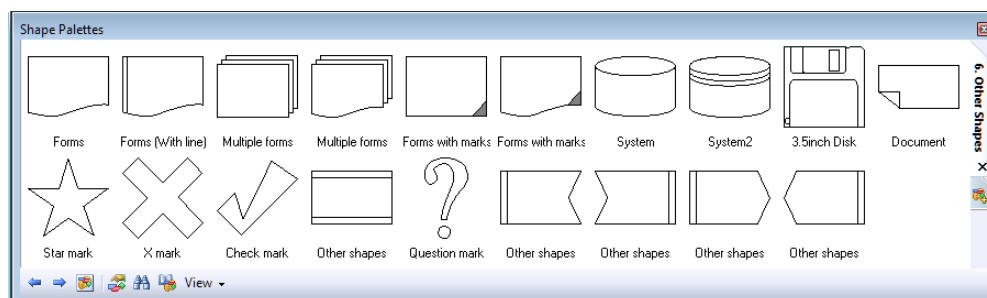
名前を変更したい場合は「_SOX+SC」を消さなければ、それより前の部位の変更は可能です。

Other Shapes

Other Shapes には、Operational Detail shape でも、Risk shape でも、Control shape でもない、(SOX+ダイアログボックスの出ない) 通常の図形のサンプルを用意しています。

業務ではない説明用にフロー上に配置したい図形として利用することができます。

SOX+ダイアログボックスが表示される図形ではありませんので、フロー上に配置したときに、業務ナンバーは付きません。



参考) 上図だけ図形の名前も参考に表示しています。

図形パレットの [View] メニューより [Show Both] を選択すると上図のように表示されます。

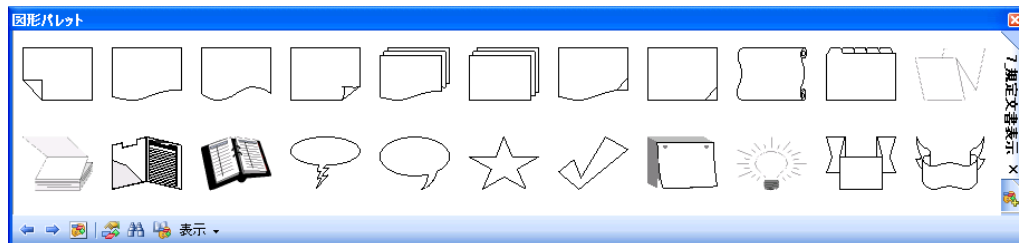
図形の名称は、それぞれ該当するイメージの名称が付けられています。名前は自由に変更することができます。

形の気に入った物をコピーして、Custom に貼り付けてすぐに利用することができます。

Display Policy manual

Display Policy manual には、SOX+3.0 から追加された Display Policy manual shapes のサンプルを用意しています。

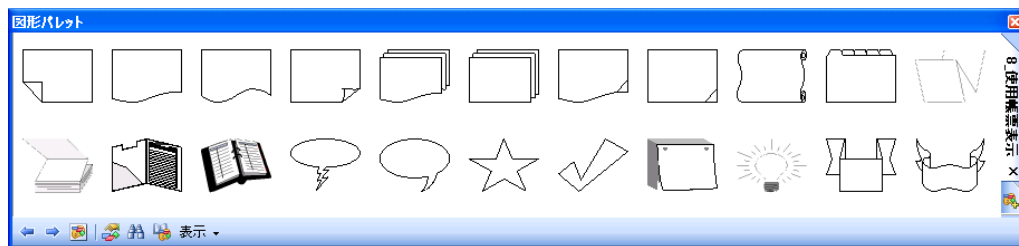
標準で用意されている図形以外の図形をお探しの場合は、このサンプルからコピーしてご利用ください。



Display Vouchers and Forms

Display Vouchers and Forms には、SOX+3.0 から追加された Display Vouchers and Forms shape のサンプルを用意しています。

標準で用意されている図形以外の図形をお探しの場合は、このサンプルからコピーしてご利用ください。



Display Policy manual と Display Vouchers and Forms には、同じ図形が用意されています。両方で同じ図形を利用したい場合は、色分けするなどの工夫によりわかりやすくご利用頂けます。

第 10 章 自社用図形集とiGrafxテンプレートを作る

業務フローチャートを作成するにあたり、使用する図形やフローの向き、描画上のルールや印刷設定などを決めます。

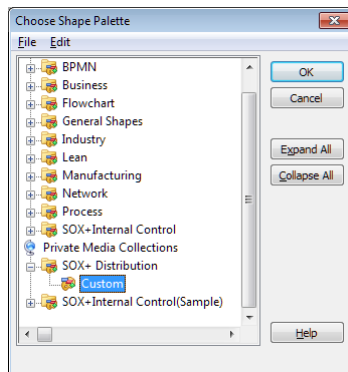
使用する図形は、自社用図形集として作成し、フローの向きや描画上のルール、印刷設定などは iGrafx テンプレートにあらかじめ設定しておきます。

自社用図形集を作成する

【SOX+ Distribution】コレクションの「Custom」サブジェクトを利用します。

インストール時に用意されている【SOX+Internal Control】コレクションの図形や【SOX+Internal Control (Sample)】コレクションから図形をコピーして、この「Custom」サブジェクトに貼り付けるだけで、簡単にオリジナルな図形集を作成できます。

作成した図形集は配布ファイル作成時に含めることができます。



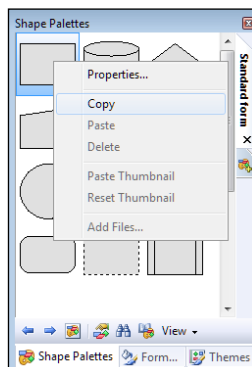
図形の編集方法

図形のコピー

コピーしたい図形の上で右クリックをし、[Copy]を選択します。

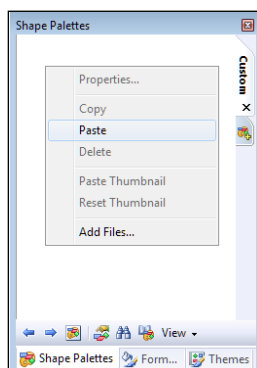
複数の図形を一度にコピーする方法として以下の複数選択の方法があります。

- ① 同じシート内で1つの図形を選択して、**Shift** キーを押しながら離れた図形を選択すると、その範囲で複数選択が可能です。
- ② 同じシート内で **Ctrl** キーを押しながら、任意の図形をクリックして複数選択します。



サンプル図形の貼り付け

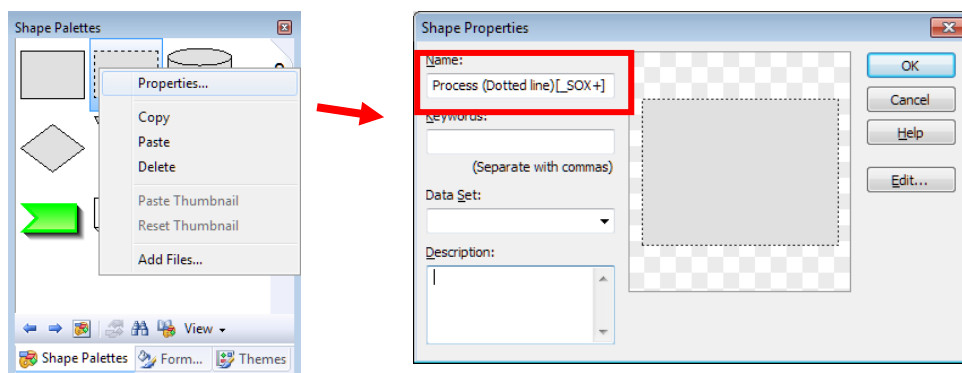
【SOX+ Distribution】コレクションの [Custom] サブジェクトを開き、その上で右クリックして、メニューから [Paste] を選択します。



※Public Media Collections のサブジェクトに対して図形の貼り付けはできません。

図形の名前の変更

貼り付けた図形の上で右クリックし、[Properties] を開きます。



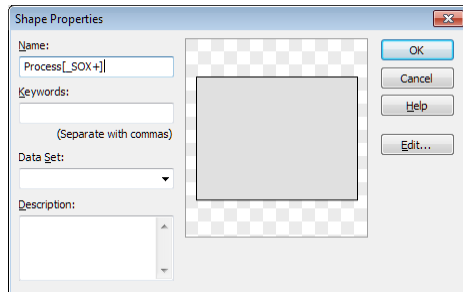
例えば、[1_Operational Detail] サブジェクトのサンプル図形は、すべて同じ名前 (Operational Detail [_SOX+]) で登録されています。[Custom] サブジェクトにコピーした後で、使用する図形の意味に合わせ Operational Detail の部分を書き換えます。

※ [] で囲まれた部分は必要なので消さないでください。

図形の書式の変更

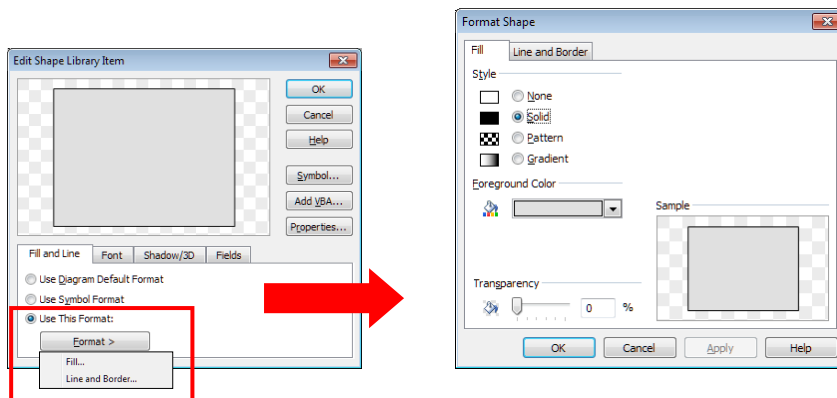
図形の [Properties] を開きます。

- ① [Edit] ボタンをクリックして [Edit Shape Library Item] ダイアログボックスを開きます。



- ② [Use Diagram Default Format] にチェックが入っていると、フロー上に追加したときに、追加した先のファイルの図形の初期設定が反映されます。

図形固有で設定する場合は「Use This Format」にチェックを入れて書式ボタンを押し、Font、Fill、Line and Border、Shadow/3D を選択して各ダイアログボックスを表示し、任意の設定に変更してください。

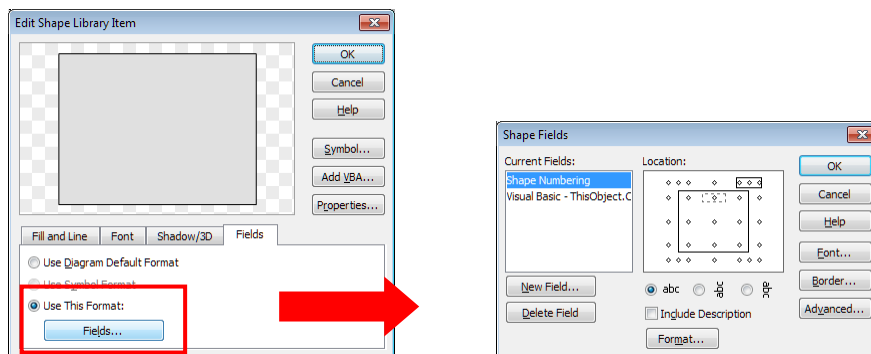


図形のフィールドの変更

図形が内部的に持っている値を図形のまわりに表記する機能です。

図形番号などのフィールド表記の書式や表記場所を変更することができます。

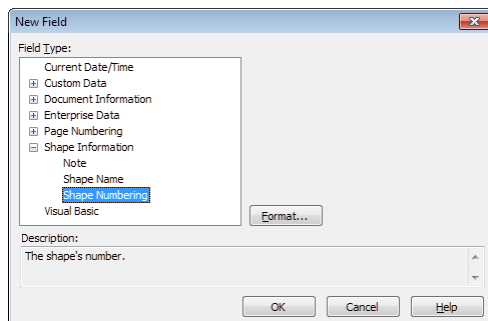
[Fields] ボタンをクリックして [Shape Fields] ダイアログボックスを開きます。



※ サンプル図形では、フィールド設定に図形番号の表示位置と書式の定義がされています。

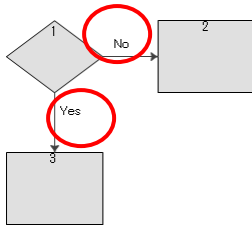
サンプル図形で設定されている図形番号は、フィールド画面の [Advanced] で非表示にしてありますので、画面上に配置した際に示されません。

[New Field] ボタンをクリックすると、図形のまわりに表記できる値を選ぶことができます。

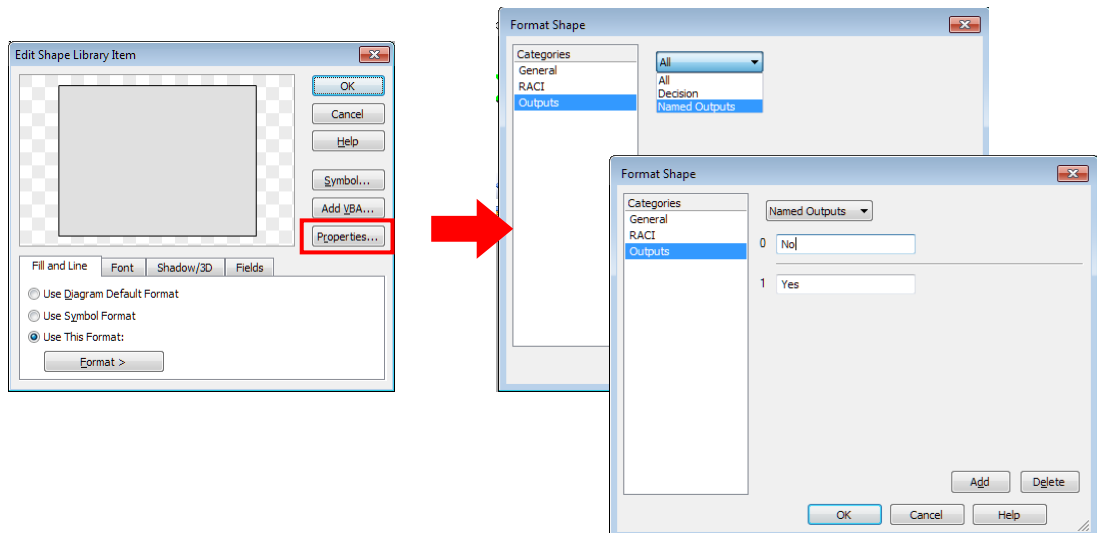


図形のプロパティの変更

ここではおもに業務フローチャートの判断に利用するラベルの出力や、ラベルそのものを変更することができます。



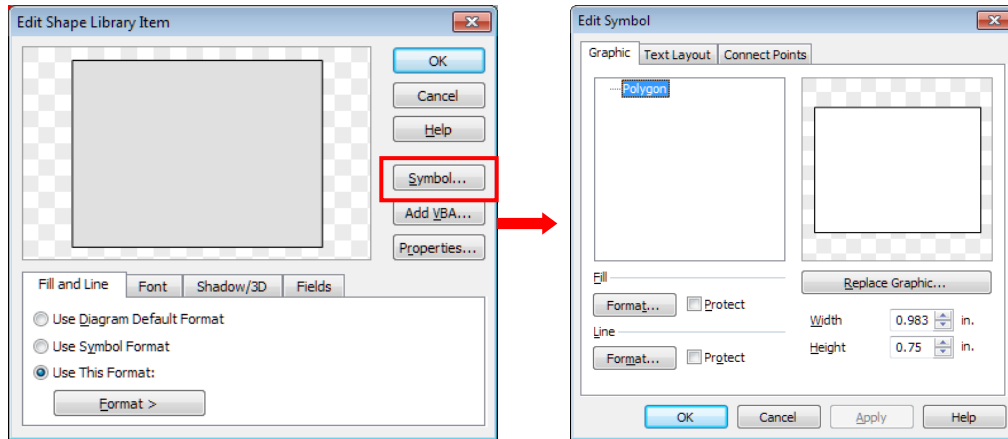
[Properties] ボタンをクリックして [Format Shape] ダイアログボックスを開きます。



図形のシンボルの変更

図形のサイズ、テキストのレイアウト、接続点の設定を変更することができます。

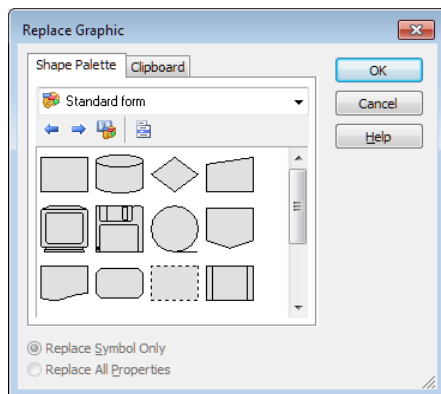
[Symbol] ボタンをクリックして [Edit Symbol] ダイアログボックスを開きます。



[Graphic] タブでサイズを定義することができます。

※ [Edit Shape Library Item] にある、[Add VBA] ボタンは絶対に押さないでください。間違えて押した場合は、その図形は破棄して、新しくサンプルコレクションからコピーして作りなおしてください。

[Replace Graphic] ボタンをクリックすると、[Replace Graphic] ダイアログボックスが開きます。図形パレットなどから任意の図形を選び、その図形のシンボルに置換することができます。(元の書式は残ります)



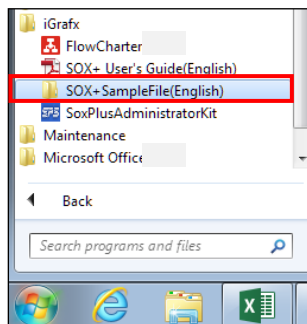
Fill と Line の Protect にチェックをした場合は、隣の [Format] ボタンがアクティブになり、そこで設定した書式が、フロー上で書式変更しようとしても保護されます。

iGrafxテンプレートの作成

iGrafxテンプレートサンプルの活用

SOX+をインストールすると、[start] メニューの中の [All Programs] の [iGrafx] メニューの中に [SOX+SampleFile(English)] というメニューが入っています。iGrafx テンプレートを作成する際には、サンプル iGrafx テンプレートをベースに自社用にカスタマイズすると便利です。

このメニューをクリックすると、SOX+で作図されたサンプルのフローや、iGrafx テンプレートのサンプルファイルが格納されているフォルダが開きます。



この中に以下の 2 種類の iGrafx テンプレートサンプルが保存されています。

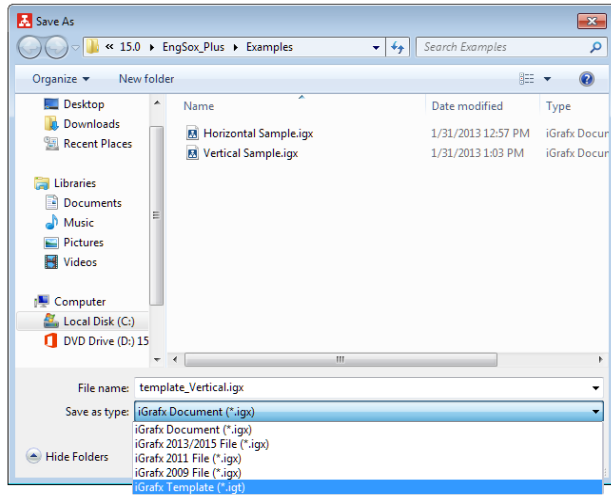
- template_Vertical.igt
- template_Horizontal.igt

各 iGrafx テンプレートサンプルでは、以下の設定があらかじめ定義されています。

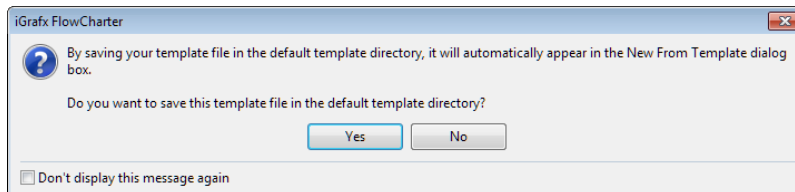
- いくつかの部門（それぞれ垂直、水平）を追加し初期設定
- 図形ライブラリ、接続線ライブラリ（直角線の実線と点線のみ）のカスタマイズ
- グリッドドットのスペースを 1 ミリへ変更
- ページ外コネクタの自動コネクタ設定
- インジケータのメモの表示位置の変更
- ページ設定のページのスケールを 70%に設定
- ページ設定のヘッダーの左と右セクションに出力変数をセット
- ページ設定のオプションでブックモードを選択し、各ページに部門のヘッダーが印刷されるよう設定
- 図表のドキュメントのデフォルト設定で図形やテキストのフォントを 8 ポイントへ変更
- 業務詳細項目のフィールド表示用のカスタムフィールドを定義（P79）

iGrafx テンプレートサンプルを開いて編集を行った場合、保存の際には必ず [Save As] を選んで保存してください。その際に [Save as type] で必ず [iGrafx Template(*.igt)] を選択して保存してください。

※保存場所はどこでも結構です。



「iGrafx Template(*.igt)」を選択して保存すると、以下のメッセージが表示されますので、[No] をクリックしてください。



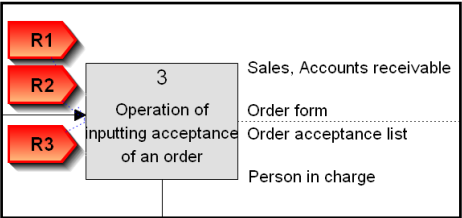
※このメッセージで [Yes] を選んだ場合は、作成した igt ファイルは、iGrafx FlowCharter の iGrafx テンプレートを保存する領域へ保存し、[Save as type] で選択した保存場所にファイルが保存されません。

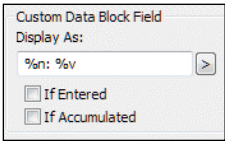
業務詳細項目フィールドの利用

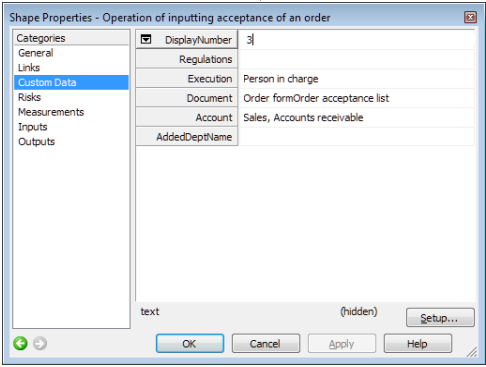
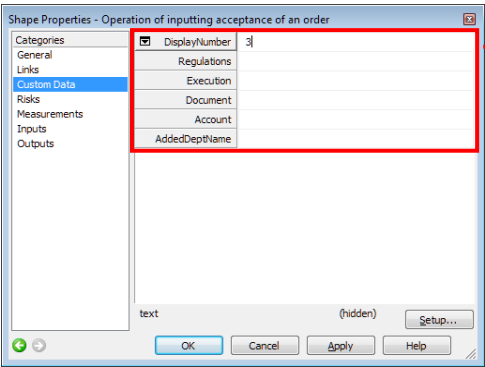
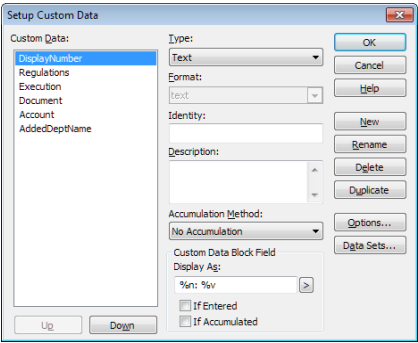
業務詳細のいくつかの項目は、図表に所定の「Custom Data」プロパティを設定し、業務詳細図形に対応する「Field」を設定することで、図形の周りに項目の内容を表示させることができます。

※付属の「iGrafx テンプレートサンプル_*.igt」では既に設定されています。

Operational Detail ダイアログボックスで各項目を入力すると、自動的にその図形のプロパティの対応する「Custom Data」へ内容が転記され、さらにその「Custom Data」に対応する「Field」に表示されます。



カスタムデータ名	転記内容	種類	Custom Data Block Field
Regulations	Policy Manual	テキスト	 <p>※チェックをすべて外す</p>
Execution	Operator	テキスト	
Document	Vouchers and Other Forms Used	テキスト	
Account	Account Title	テキスト	
AddedDeptName	Added Dept Name	テキスト	



「Custom Data」の設定

「Custom Data」プロパティは図表ごとに設定する必要があります。この機能を標準で使用される場合は、設定の手間を省くため、あらかじめ「Custom Data」プロパティを設定した iGrafx テンプレートを準備し、そこからフローチャートを作成するようにしてください。

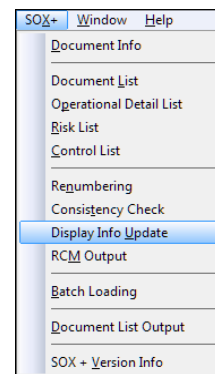
既存の図表でこの機能を利用したい場合は、「Custom Data」の設定をコピーするために、[start]メニューの [All Programs] 中の「iGrafx」の中の [SOX+ SampleFile(English)] フォルダにある「iGrafx Vertical Sample.igx」を開いてください。(P77)

開かれた図表上の適当な図形をコピーし、「Custom Data」プロパティを設定したい図表上へ貼り付けます。「Custom Data」プロパティが貼り付け先の図表にコピーされます。

貼り付けた図形はそのまま削除してください。「Custom Data」プロパティの設定はコピーした図形を消しても図表内に設定が残ります。

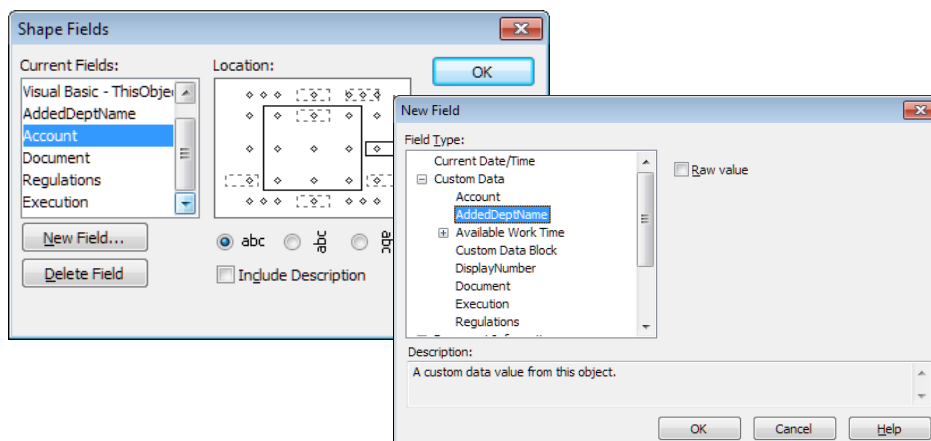
次に、業務詳細の各情報をカスタムデータへ転記するために、表示情報の更新を行います。[SOX+] メニューの [Display Info Update] を選択してください。

業務詳細の項目に入力されていた内容が、「Custom Data」プロパティの対応するカスタムデータに転記されます。



「Shape Fields」の設定

「Custom Data」プロパティに転記された情報を実際に図形に表示するには、図形に、「Shape Fields」が設定されている必要があります。

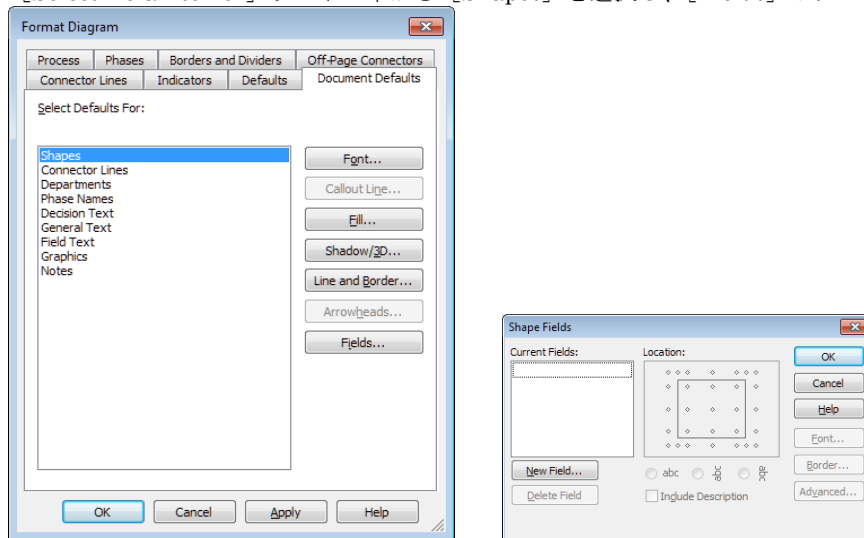


情報を表示したい図形を選択し、右クリックメニューの中の [Fields] メニューを選択し、[Shape Fields] ダイアログボックスの [New Field] ボタンを押します。

[New Field] ダイアログボックスで [Field Type] の [Custom Data] を開き、表示したいデータを選択して OK ボタンを押します。[Shape Fields] ダイアログボックス上で位置の調整を行って OK ボタンを押して図形フィールド ダイアログボックスを閉じます。

図形に最初から [Shape Fields] を設定しておきたい場合は、[Format] メニューの [Diagram] メニューから [Format Diagram] ダイアログボックスの [Document Defaults] タブを開きます。

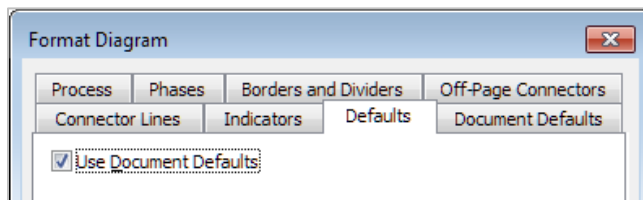
[Select Defaults For] リストの中から [Shapes] を選択し、[Fields] ボタンをクリックします。



ここで設定をしておくと、図形を配置したタイミングで図形フィールドが作成され、Operational Details ダイアログボックスでデータを入力した（カスタムデータ内にデータが転記された）と同時に画面上にも表示されるようになります。

[Defaults] タブを開き [Use Document Defaults] にチェックを入れておきます。

[Document Defaults] はファイル単位の設定です。ファイルに存在する各図表は、この [Document Defaults] の設定値を継承します。



図表毎に別の設定をする場合は、「Defaults」タブの「Use Document Defaults」のチェックを外して、設定します。

第 11 章 付録

以下の表は、各シートの初期設定の列情報です。

「表示」が○の項目は初期設定の表示項目で、－は非表示項目を表します。

一括取込時に対象のデータが取り込まれるかどうかについては「取込」列をご参照ください。

「キー」：このキー項目が取込先フロー内のデータと一致しなければ全てのデータは取り込まれません。

「－」：このデータは取り込むことができません。

「テ」：テキストで入力された文章がそのまま取り込まれます。

「*」：Excel 上で「*」と入力されていると、取り込みにより画面の該当する項目にチェックがつきます。

「リ」：リスト項目に存在しているデータのみ取り込まれます。

Narrativesシート列情報

列 No		表示	取込	項目名	説明および備考
1	A	○	キー	Document ID	文書情報の文書識別を出力
2	B	－	－	Company Name	文書情報の会社名を出力
3	C	－	－	Location/Department	文書情報の事業拠点を出力
4	D	－	－	ID	文書情報のプロセス ID を出力
5	E	－	－	Process Name	文書情報のプロセス名称を出力
6	F	－	－	ID	文書情報のサブプロセス ID を出力
7	G	－	－	Sub-Process Name	文書情報のサブプロセス名称を出力
8	H	－	－	ID	文書情報の業務 ID を出力
9	I	－	－	Operation Name	文書情報の業務名称を出力
10	J	－	－	Account Title	文書情報の勘定科目を出力
11	K	－	－	Policy Manual	文書情報の規定文書を出力
12	L	－	－	Vouchers & Other Forms Used	文書情報の使用帳票を出力
13	M	－	－	System Name	文書情報のシステム名を出力
14	N	－	－	Phase	業務詳細のあるフェーズ名を出力
15	O	－	－	For sorting operation numbers	システム利用セル（変更不可）
16	P	－	－	Operational Detail Object ID	システム利用セル（変更不可）

列 No		表示	取込	項目名		説明および備考
17	Q	○	キー	No		業務詳細の No を出力
18	R	○	テ	Operational Detail Name		業務詳細の名称を出力
19	S	○	テ	Operational Detail Content		業務詳細内容を出力
20	T	—	テ	Shape Name		業務詳細図形に割り当てる図形の名称（新規取込時に参照されます）
21	U	—	テ	Account Title (Operational Detail)		業務詳細勘定科目を出力
22	V	—	—	Department/Division		業務詳細のある部門名を出力 (親 Swimlane から通しで名称を出力)
23	W	○	—	(Full Expression)		業務詳細のある部門名を出力 (一番下位の Swimlane 名を出力)
24	X	○	テ	Department/Division		業務詳細の実施者を出力
25	Y	—	テ	Operator		業務詳細の規定文書を出力
26	Z	—	テ	Policy Manual		業務詳細の使用帳票を出力
27	AA	—	○	Segregation of Duties	Conservation	業務詳細の職務分離：保全
28	AB	—	○		Approval	業務詳細の職務分離：承認
29	AC	—	○		Record	業務詳細の職務分離：記録
30	AD	—	○		Control	業務詳細の職務分離：コントロール
31	AE	—	○		Reserved	業務詳細の職務分離：予備
32	AF	—	○		Reserved	業務詳細の職務分離：予備
33	AG	—	○		Reserved	業務詳細の職務分離：予備
34	AH	—	○		Reserved	業務詳細の職務分離：予備
35	AI	—	○		Reserved	業務詳細の職務分離：予備
36	AJ	—	○		Reserved	業務詳細の職務分離：予備
37	AK	—	○		Reserved	業務詳細の職務分離：予備
38	AL	—	○		Reserved	業務詳細の職務分離：予備
39	AM	—	テ	System Name		業務詳細のシステム名を出力

列 No		表示	取込	項目名		説明および備考
40	AN	—	テ	Remark		業務詳細の備考を出力
41	AO	—	—	Risk	Risk ObjectID	紐付いているリスクの ObjectID
42	AP	—	—		No	紐付いているリスク No を出力
43	AQ	—	—		Classification	紐付いているリスク分類番号を出力
44	AR	—	—		Label	紐付いているリスクラベルを出力
45	AS	—	—		Risk Content	紐付いているリスク内容を出力
46	AT	—	—		Impact	紐付いているリスクのインパクトを出力
47	AU	—	—	Control	Control	紐付いているコントロールの ObjectID
48	AV	—	—		ObjectID	紐付いているコントロールの No を出力
49	AW	—	—		No	紐付いているコントロールのラベルを出力
50	AX	—	—		Label	紐付いているコントロールの内容を出力

全てのデータは列の表示・非表示に関わらず存在していれば出力されますが、41～50（AO～AX）の「Risk」「Control」はオプション出力となっており、RCM テンプレートで非表示列となっている場合は出力されません。

RCMシート列情報

列 No		表示	取込	項目名	説明および備考
1	A	○	キー	Document ID	文書情報の文書識別を出力
2	B	—	—	Company Name	文書情報の会社名を出力
3	C	—	—	Location	文書情報の事業拠点を出力
4	D	—	—	ID	文書情報のプロセス ID を出力
5	E	—	—	Process Name	文書情報のプロセス名称を出力
6	F	—	—	ID	文書情報のサブプロセス ID
7	G	—	—	Sub-process Name	文書情報のサブプロセス名称
8	H	—	—	ID	文書情報の業務 ID を出力
9	I	—	—	Operation Name	文書情報の業務名称を出力
10	J	—	—	Account Title	文書情報の勘定科目を出力
11	K	—	—	Phase	フェーズを出力
12	L	—	—	Operational Detail (ObjectID)	システム利用セル（変更不可）
13	M	○	—	No	業務詳細の No を出力
14	N	○	—	Operational Detail Name	業務詳細の名称を出力
15	O	—	—	Account Title(Operational Detail)	業務詳細の勘定科目を出力
16	P	—	—	Department/Division (Full expression)	業務詳細のある部門名を出力 (親 Swimlane から通して名称を出力)
17	Q	—	—	Department/Division	部門を出力
18	R	—	—	For sorting numbers	システム利用セル（変更不可）
19	S	—	—	Risk ObjectID	システム利用セル（変更不可）
20	T	○	キー	No.	リスクナンバーを出力
21	U	—	テ	Classification No.	リスク分類を出力
22	V	○	リ	Category	カテゴリーを出力
23	W	—	テ	Label	ラベルを出力

列 No		表示	取込	項目名		説明および備考
24	X	○	テ	Risk Content		リスク内容を出力
25	Y	—	テ	Impact		インパクトを出力
26	Z	—	○	Control Objectives	Reliability of Financial Reporting	選択されていたら [*] を出力
27	AA	—	○		Effectiveness and Efficiency of Operations	選択されていたら [*] を出力
28	AB	—	○		Compliance with Applicable Laws and Regulations	選択されていたら [*] を出力
29	AC	—	○		Safeguarding of Assets	選択されていたら [*] を出力
30	AD	—	○		Reserved	予備
31	AE	—	○		Reserved	予備
32	AF	—	○		Reserved	予備
33	AG	—	リ	Risk Level		影響度を出力
34	AH	—	リ	Frequency		発生頻度を出力
35	AI	—	リ	Extent of Impact		影響範囲を出力
36	AJ	—	リ	Estimated Loss		損失想定を出力
37	AK	—	テ	Remark		備考を出力
38	AL	○	○	Assertion	Existence or occurrence	選択されていたら [*] を出力
39	AM	○	○		Completeness	選択されていたら [*] を出力
40	AN	○	○		Rights and Obligations	選択されていたら [*] を出力
41	AO	○	○		Valuation	選択されていたら [*] を出力
42	AP	○	○		Allocation	選択されていたら [*] を出力

列 No		表示	取込	項目名		説明および備考
43	AQ	○	○		Presentation and Disclosure	選択されていたら [*] を出力
44	AR	—	○		Reserved	予備
45	AS	—	○		Reserved	予備
46	AT	—	○		Reserved	予備
47	AU	—	○		Reserved	予備
48	AV	—	○		Reserved	予備
49	AW	—	○		Reserved	予備
50	AX	—	○		Reserved	予備
51	AY	—	○		Reserved	予備
52	AZ	—	—	Target Risk	Document ID	ターゲットリスクの文書識別
53	BA	—	—		Risk's ObjectID	システム利用セル（変更不可）
54	BB	—	—		File Name	ターゲットリスクのファイル名
55	BC	—	—		Risk No.	ターゲットリスクナンバー
56	BD	—	○	Assertion	Existence or occurrence	選択されていたら [*] を出力
57	BE	—	○		Completeness	選択されていたら [*] を出力
58	BF	—	○		Rights and Obligations	選択されていたら [*] を出力
59	BG	—	○		Valuation	選択されていたら [*] を出力
60	BH	—	○		Allocation	選択されていたら [*] を出力
61	BI	—	○		Presentation and Disclosure	選択されていたら [*] を出力
62	BJ	—	○		Reserved	予備
63	BK	—	○		Reserved	予備
64	BL	—	○		Reserved	予備
65	BM	—	○		Reserved	予備

列 No		表示	取込	項目名		説明および備考
66	BN	—	○		Reserved	予備
67	BO	—	○		Reserved	予備
68	BP	—	○		Reserved	予備
69	BQ	—	○		Reserved	予備
70	BR	○	キー	Document ID		文書情報の文書識別を出力
71	BS	—	—	Company Name		文書情報の会社名を出力
72	BT	—	—	Location		文書情報の事業拠点を出力
73	BU	—	—	ID		文書情報のプロセス ID を出力
74	BV	—	—	Process Name		文書情報のプロセス名称を出力
75	BW	—	—	ID		文書情報のサブプロセス ID
76	BX	—	—	Sub-Process Name		文書情報のサブプロセス名称
77	BY	—	—	ID		文書情報の業務 ID を出力
78	BZ	—	—	Operation Name		文書情報の業務名称を出力
79	CA	—	—	Account Title		文書情報の勘定科目を出力
80	CB	—	—	Phase		フェーズを出力
81	CC	—	—	Operational Detail Object ID		システム利用セル（変更不可）
82	CD	○	—	No		業務詳細の No を出力
83	CE	○	—	Operational Detail Name		業務詳細の名称を出力
84	CF	—	—	For Sorting numbers		システム利用セル（変更不可）
85	CG	—	—	Control Object ID		システム利用セル（変更不可）
86	CH	○	キー	No		コントロール No を出力
87	CI	—	テ	Label		ラベルを出力
88	CJ	○	テ	Control Content		コントロール内容を出力
89	CK	○	リ	Control Type		統制タイプを出力
90	CL	○	リ	Control Frequency		統制頻度を出力

列 No		表示	取込	項目名		説明および備考
91	CM	—	リ	Occasional Control Frequency (undisplay)		随時の発生頻度を出力
92	CN	—	—	Department/Division (Full expression)		業務詳細のある部門名を出力 (親 Swimlane から通して名称を出力)
93	CO	○	—	Department/Division		部門を出力
94	CP	○	テ	Operator		実施者を出力
95	CQ	○	テ	Evidential Document		証憑を出力
96	CR	○	テ	Policy Manual		規定文書を出力
97	CS	○	テ	System Name		システム名を出力
98	CT	—	○	Control Classification	Approvals/ Authorizations	選択されていたら [*] を出力
99	CU	—	○		Supervisory Review	選択されていたら [*] を出力
100	CV	—	○		Reconciliation	選択されていたら [*] を出力
101	CW	—	○		Segregation of Duties	選択されていたら [*] を出力
102	CX	—	○		Policies and Procedures	選択されていたら [*] を出力
103	CY	—	○		Key Performance Indicators	選択されていたら [*] を出力
104	CZ	—	○		Error/Anomaly Detection	選択されていたら [*] を出力
105	DA	—	○		Automated Control	選択されていたら [*] を出力
106	DB	—	○		System Access	選択されていたら [*] を出力
107	DC	—	○		Reserved	予備
108	DD	—	○		Reserved	予備
109	DE	—	○		Reserved	予備
110	DF	—	○		Reserved	予備

列 No		表示	取込	項目名		説明および備考
111	DG	—	○		Reserved	予備
112	DH	—	○		Reserved	予備
113	DI	—	○		Reserved	予備
114	DJ	○	○	Type	Preventive	選択されていたら [*] を出力
115	DK	○	○		Detective	選択されていたら [*] を出力
116	DL	—	○		Reserved	予備
117	DM	○	○	Assurance Level	Primary	選択されていたら [*] を出力
118	DN	○	○		Secondary	選択されていたら [*] を出力
119	DO	—	○		Reserved	予備
120	DP	○	リ	Control Level		統制レベルを出力
121	DQ	—	○	Control Deficiency		選択されていたら [*] を出力
122	DR	—	○	Type (Target Risk Properties)	Preventive	選択されていたら [*] を出力
123	DS	—	○		Detective	選択されていたら [*] を出力
124	DT	—	○		Reserved	予備
125	DU	—	○	Assurance Level (Target Risk Properties)	Primary	選択されていたら [*] を出力
126	DV	—	○		Secondary	選択されていたら [*] を出力
127	DW	—	○		Reserved	予備
128	DX	—	リ	Control Level (Target Risk Properties)		統制レベルを出力
129	DY	—	○	Control Deficiency (Target Risk Properties)		選択されていたら [*] を出力
130	DZ	—	○	Test Details	Method	テスト方法を出力
131	EA	—	○		Operator	テスト実施者を出力
132	EB	—	○		Cycle	テスト周期を出力
133	EC	—	○	Remark		備考を出力

Form Listシート列情報

このシートの情報は一括取込対象外です。

列 No		表示	項目名	説明および備考
1	A	○	Document ID	文書情報の文書識別を出力
2	B	—	Company Name	文書情報の会社名を出力
3	C	—	Location	文書情報の事業拠点を出力
4	D	—	ID	文書情報のプロセス ID を出力
5	E	—	Process Name	文書情報のプロセス名称を出力
6	F	—	ID	文書情報のサブプロセス ID を出力
7	G	—	Sub-Process Name	文書情報のサブプロセス名称を出力
8	H	—	ID	文書情報の業務 ID を出力
9	I	—	Operation Name	文書情報の業務名称を出力
10	J	—	Account Title	文書情報の勘定科目を出力
11	K	—	Phase	業務詳細のあるフェーズ名を出力
12	L	○	Vouchers and Other Forms Used	業務詳細の使用帳票を出力
13	M	—	For sorting operation numbers	システム利用セル（変更不可）
14	N	—	Operational Detail Object ID	システム利用セル（変更不可）
15	O	○	No.	業務詳細の No を出力
16	P	○	Operational Detail Name	業務詳細の名称を出力
17	Q	—	Operational Detail Content	業務詳細内容を出力
18	R	—	Account Title(OperationalDetail)	業務詳細勘定科目を出力
19	S	—	Department/Division (Full Expression)	業務詳細のある部門名を出力 (親 Swimlane から通しで名称を出力)
20	T	○	Department/Division	業務詳細のある部門名を出力 (一番下位の Swimlane 名を出力)
21	U	○	Operator	業務詳細の実施者を出力
22	V	—	Policy Manual	業務詳細の規定文書を出力

列 No		表示	項目名		説明および備考
23	W	—	Segregation of Duties	Conservation	選択されていたら [*] を出力
24	X	—		Approval	選択されていたら [*] を出力
25	Y	—		Record	選択されていたら [*] を出力
26	Z	—		Control	選択されていたら [*] を出力
27	AA	—		Reserve	予備
28	AB	—		Reserve	予備
29	AC	—		Reserve	予備
30	AD	—		Reserve	予備
31	AE	—		Reserve	予備
32	AF	—		Reserve	予備
33	AG	—		Reserve	予備
34	AH	—		Reserve	予備
35	AI	—	System Name		業務詳細のシステム名を出力
36	AJ	—	Remark		業務詳細の備考を出力

Evidence Listシート列情報

このシートの情報は一括取込対象外です。

列 No		表示	項目名	説明および備考
1	A	○	Document ID	文書情報の文書識別を出力
2	B	—	Company Name	文書情報の会社名を出力
3	C	—	Location	文書情報の事業拠点を出力
4	D	—	ID	文書情報のプロセス ID を出力
5	E	—	Process Name	文書情報のプロセス名称を出力
6	F	—	ID	文書情報のサブプロセス ID
7	G	—	Sub-Process Name	文書情報のサブプロセス名称
8	H	—	ID	文書情報の業務 ID を出力
9	I	—	Operation Name	文書情報の業務名称を出力
10	J	—	Account Title	文書情報の勘定科目を出力
11	K	○	Evidential Document	コントロールの証憑を出力
12	L	—	Phase	フェーズを出力
13	M	—	Operational Detail (ObjectID)	システム利用セル（変更不可）
14	N	○	No	業務詳細の No を出力
15	O	○	Operational Detail Name	業務詳細の名称を出力
16	P	—	For sorting numbers	システム利用セル（変更不可）
17	Q	—	Control ObjectID	システム利用セル（変更不可）
18	R	○	No	コントロール No を出力
19	S	—	Label	コントロールのラベルを出力
20	T	—	Control Content	コントロール内容を出力
21	U	○	Control Type	コントロールの統制タイプを出力
22	V	○	Control Frequency	コントロールの統制頻度を出力
23	W	—	Occasional Control Frequency (undisplay)	コントロールの随時の発生頻度を出力

列 No		表示	項目名		説明および備考
24	X	—	Department/Division (Full Expression)		業務詳細のある部門名を出力 (親 Swimlane から通しで名称を出力)
25	Y	○	Department/Division		部門を出力
26	Z	○	Operator		コントロールの実施者を出力
27	AA	—	Policy Manual		コントロールの規定文書を出力
28	AB	—	System Name		コントロールのシステム名を出力
29	AC	—	Control Category	Approvals/ Authorizations	選択されていたら [*] を出力
30	AD	—		Supervisory Review	選択されていたら [*] を出力
31	AE	—		Reconciliation	選択されていたら [*] を出力
32	AF	—		Segregation of Duties	選択されていたら [*] を出力
33	AG	—		Policies and Procedures	選択されていたら [*] を出力
34	AH	—		Key Performance Indicators	選択されていたら [*] を出力
35	AI	—		Error/Anomaly Detection	選択されていたら [*] を出力
36	AJ	—		Automated Control	選択されていたら [*] を出力
37	AK	—		System Access	選択されていたら [*] を出力
38	AL	—		Reserve	予備
39	AM	—		Reserve	予備
40	AN	—		Reserve	予備
41	AO	—		Reserve	予備
42	AP	—		Reserve	予備
43	AQ	—		Reserve	予備
44	AR	—		Reserve	予備

列 No		表示	項目名		説明および備考
45	AS	○	Control Level		コントロールの統制レベルを出力
46	AT	—	Test Details	Method	コントロールのテスト方法を出力
47	AU	—		Operator	コントロールのテスト実施者を出力
48	AV	—		Cycle	コントロールのテスト周期を出力
49	AW	—	Remark		コントロールの備考を出力



<https://www.sunplanning.co.jp/>